

草木智悉一部的色多見安門的 神祗人偏居两點財衣食鳥獸生鱼 和分連你の便りた 強之をのせる以下をかし天地 此書ところの見名と無法方 俳 名名

きって、おり見とないは なくうとのしてきる しき下る一个酸子了 れるとと

くてあるであたっちょうち

くしなまるうに異いる

老

そろう詞と関う人が用る人 まってるかかれても、まる それぞろではらうちつん さすようないいるしといっても 多えなっているのうり ノまるとうないないと 式すでは、気をくろきてい るろういくまきりりした 好るしかれるおかういと 松のうろれるなりれるとて、後男 うるなはあけるとうい うやってるかれてきるし

のとるとかいっている ろうきしょうろきからるは のようべくうなかつひょう にの川色的でような多種 ふくましつとしは意地な 要了了多人高一多多家屋

あたけるかんとうから 汤建爱父

まるを教の務了工作しの必喜歌家養本年乾福かる あるのあうえいうしてまけしれるるるでかってきるう まるうであっているでともめるというころうん のきろうわとするよったくれるけるろうりかりまえかられる くれたくさるのありるだろうろうちょういらいはくめる できたわきはいるかり、其名のけっととうてできて ているいとはきまめっているけるしくろせて古名なか うけうかきもいさいうきりては見るは人はれいまかと あのきできょうつうのきてのはぞりがっているから大 らいるでとなり、うれの中よれくさけると、係名的はない うちつからなとそのうくそうなきろうかれるれ

東海震。大多東海炎,夕夏十月一日本海河,南京国家,高河国家,京风景,高河国家,南京国家,北京

稻湖宝宝野风水季江十十二

けるれはくろいまったあうなも そてとう人を対かるときま それとち利ひさ いなるへろれいくいる主政いろ っれるろともはる

在一个子篇·夏春山朝子女父主张神 時節

三月九 月世 月 秋 夏 春 版* 日プ 琉 四月 月世五

云月六 朝冬秋 五月二十 春沙朝牙 九月芒

十月告 月北 月

里名分類鈔

美 るやのせき 九石見式 神樂酒殿哥いきそれをめ中からでのなっとろかっている 射動機乗る

さとなみち、おきまり 久方けいるであせるもあるなくれならなって我はそのうと おってれていっとうとう 一つれるのとゆるいれてとってなり

あさいこ そうくうつかるのからわれておるととゆるでし らめきててくりなりとめできかんるおきのかうちりしてあけい られていあるとこのきとやまへのおったのいつしま

目

传报小多了

の天八十落 张能訶句理麻須阿無能鄉籍訶礎之不愿題的之八十薩推古印歌云夜頂然志斯和我找朋考 日からえなかという

〇中たがらす和名鈔玄陽鳥歷天一記一五日中有二年 喜概名見 民私一記一云 良類 豆,島,赤色今家、文選謂,之"陽鳥日本一犯謂之"小路

きらえをところえをとこ

月

美

とけてうとわるいのもろうしくしも自注る右一首 さいらえをとこめるまままりいのそにてらるないとあ

はる然といきほける前川ゆうかわらりますといくしくする古 えとつといいていかからとってけらる男とつるなを称する要は とい神代奏可愛男は残えまとろとんろあを切ろりむし 歌或之月之别一名曰佐散良衣壮子,他中找下月好 語拾遺云阿那佐夜想之声激天出犯一身之之也 常良壮子なえなうりようきとも 月吉はるはららか とーラシー

つきよみをところがあり、あるとうとうない つきかとからこに多年一般のちずれゆきるかり あっされる月人をよう ひいていころはかっさいはよけるころ

かつらをとこ一後をようしましてもだちりろうとあるに

ままる はる 松本が 花上がる

松をおり初かつちょうろうのでしらせ

ふずいいようなとうのきする一のえ

まるまゆこ 万家等とつやりのけるちををれたすは 弓をかくるずうちょうけむ是間人名称大浦初月

かつらひてる 詞林探等三萬名死日。月中桂長 二一百五十一支,月一輪內"有之下"有河此水秋花開云 秋白といれい我をなるうると言あてる。日はのれば 我明云月の接を重於侵私的教をでする い言诗性名

言うようてなずうしと語一受極のふといりはるなど

丁五夜已沒 的向

ナン、きらい、をいからいさらいのカハナからしきほんのきかと 〇もちくたち まますいきちってもまずれるをよう ゆっとういのかっているではっていとういの方をうしき とうとままれれてるいちくとと大のらいかしられたってる けんれていると他しいさらかかいさらいなわるもとな そけていのかをもいきるかというかしてる数まえる内のうく なっとかけらうはいさらいの内はろうならもらはけばいますい いきるといかは出人くしてこめてとがしやとうめをソスつしまれ

いきいなねとわりていさずねとよずきてうされとなる あらのかぎをちっとしていきられをわらううりもいぬり そつめあるしつー をするといろけるはなといろそろいったのつかしれ

十七日ぬかちまいのこともからくしいま れちまち、我祝られるのからしわけらて遠きのとれ四きれ きそきかのわせんろうむ

のとうて上下書 つかまちる盛年さるはをいくとうく一层移力あり

十九日言語とうて教をうして珍しまれのでというけんからと

ねまちいきかおる。はちちってらかははりから、見ない しまち えるる下とあり今事是華光之一月か日もうるかまで ーー うしょうのわそうにきしかうると、はまはけらかとうれたと うつうないるまってもさくしむをななにしてきい十九りなり いてくていましまはるいなくまはまましかうまつるまろした る、物流のはも四一般因い十九日わずちかりょうあうでありといい けいれなりてくてようとうとろうとうてきるとうですると れなしずれはなすらずらいるつうかという。仍を多くなんでは 多あていおうれそからわらの力なつとうかははる事もする うてんじるっても十九の以わるちとよるりろうきらきいったいる

飲のは為 推古紀云。三十二年三月丁未朔戊申日有 飲足る いいき向かれいけれると記るしなといろれる うろものとおきろしるおわかるとやちろしろにきいきせる そうてもいるしてはいけらわきれでとあり、もいたをまない えてきていちんの一人というれし人のかくできてれいるっと い十九日勿為我再第る後さてるは上を別かて行しせいけりの 多しというとなるしまたけるかなるでとろいし、ころだり 智神はいはちによって十、は好展すらといいかは好事すらと

明星生生 あうはし和名動明星間かけけしちはたののまった

きっけしとえるれるおきるありはしのろうなあしにいとうし れてかるやしたうそれようちっていなかんろうんいてる

たれときほし かったれはしかられているるれるとえかける 「あったさのそれとさるものなとすくとかくくうつはせるうれ きはるとってさなをいろってのきはありとえるちゃくたと かってといったい

からつい 和名敏文。太白星一名長康暮見粉西

えろうとなることとのとにもいかってははしといえるとん 方為長東は不る十、ゆうついもかうありがのいたしったとく あるわらろうれ

牵牛

のいぬかひはき は和名の意志得 和名鈔立。牵牛一名河鼓此古保之又

かてついより景色歌等了では見れる物とか 渭河鼓みみかろし

北斗

ないとのすばとせ在星かりまする中であるいか するとし、のろける人のからいをきときかうないのは

が星 さないぞう

よはひ回し和名動云流星一名奔星与此支 まましてうやましるとうなくろうなくろいけるうきてかて ひろきる

ひなつはし人養なまりをかくときと考る平氏太 子傳日敬達天皇九年六月有父奏日有土即連 出異之追尋到一位吉清一天晓一人海者太子侍侧表 八島唱歌絕世夜有人来相和争歌音聲非常八 日,斯受惑星也天皇大警問之。太子春日、天有五

压 はあれるとう きのしをふいさ 係るあるるられたの、そうれー かなのれなり からの多ははあるとぬるできてといたといれのゆうら さるろうといまなといゆつろとを見をつって るるちある千二石を十九事ですのむとないずいにはずしあ なくてきのをつくさい凡の名とりけてう下四里を見 唐るちずあるちのおけいをかたしいであるにきいい ふうちのこのしをうきくするりくり、判光顕明立た方は 東おるさのことったいれふくうせのもなりきないる

日汲長产追命是風神也、件のおお内名とうかろう 今はそやてとりかうとう面をままああってはこうむ きすき 臭徳去さささいれのえかうごりきをと さなで好うせ 神代奏目伊装議尊日我所生之 てやちいではおえは計れかっとは風しき、そからい いのそれてかけるうりしも回り降ようとうとうひ 迂風なら、ゆをチとよむいなれ、風本、きかならろし。 國唯有朝務而薰滿之我乃吹撥之氣化為神号 いいくのはるしかくしきりきというれるのはそいた あるやそごをやせきずれるそとれ う対いるとなりたろしいはないないらこっさんきわな

してはや 少風なるという,中臣被名科户乃凡乃天乃八重 けんじょうの思えが吹きらっていきなるのれいれなからう もであれてあすつかけらくてつさしらき事いこならのれる必 雲平吸放津事乃如久る了。原氏物原是了ある了人方。 そのうははこいかなるからのほうくべてきとのにきます

るころ 原体よりも対ののるとからってほうしえ真 もまちりしてるるけるはなしならいなはしなるとう まるいせのはおかくうをさらしわったあすもわろっとってん とうなるろとりものろといいされるころてれてそうなり もはのえなうでありる数あるまでいまといるからては吹なん

さらいかぜまをゆめやちまをいていろうふそうちもまれ たらいろうちいかてはのなからまかくし とていまからやい人はるさきがまではのういかりのきでといって いのねいきょうしたりのとみをそのけと

東 屋 、

あゆけらべてるませいかのはれいまくやらりなどのはまれいま はうとうをからとさらである自注之。我一份東风調之事 由乃可是也

でたる。せなかなれてくろうというというはできる 東一凡謂之一谷一風亦雅曰東風調之一谷一八点 そのは多詩"日。智」於一風以陰以而注入習、和舒也

いかたるませいあずきいまろうしるのうきはをえ

みかとははいちから、多名的をまおおなでの何ところう類は

あなまるまますいあかしまいこのものるちめはます 役ときろう きるうはやきつむあかりい成変よい及むり次れをつえ 夕色さおなしらはいをあなしとういそれてよういいはえ 5ろ、文和あるかしいみれをうしてはいしみなるという。 となるうなかりまのいをあなっといるいさいないなしある らはれを成変なこととうううつそのってわれあなりらを成支う

らるへれいろとれて しいおるとうへいろはいのからいそんというあん いいわろれるでかりははほいとなる後頭といろき the thung town or time 一次にかんかしま まのいなるしているとれてしならいまといいるかり、日本人 waste broke をまるる 沙中切るえゆけるまれ

黑風

故風

なないといれまとうべてでかれるといろかのはな 火火を、上、水水水のあるのはあって、水水水のある、おかの大大との

まっつくまっくまするなるいち 屉

まっている

けつみ 沿言去的和名的 日韓五美 雨水也しより

きるようの、はははいいいいなり

つちらげらう かなっていまれているのかっているころ

0.4.604,0 るならまままったろけれるためろ

そろかのといいろといっていると

大面

仁 犯感找而候樂雜帶而表,一万二長 0500 る。直まらへはは無難とうとろととろん

霞 をようつさ

さまひね 松からいとくっているはっ いたけをからとき用て、品布本社四方花記信を写る るとつをでというそうとりとる小変なったは いくつのらのいろかりもうしょるやうな

さらたすね るえるるとうたでいひとてているす

おらたけいめ、香むらかれのとうとうとういう けっとうそうそころ ないるがきったがいきったがいめれるなったってん

はるなほたし は祝きる真れられのためまからゆう それるとうれるがなんとのかるをうまれれいさらなみ 保安ラダカ月まる風のゆるれなるのいですなる しるといれるそうってろうからするから、けっている 考しているのかりしとでまれてくると 要件没 まそものはっしなうとれておりく人のある。山屋い春のはら

たまきほく

のようで

なめけるを

はいまれるというない。 いろさくさの根花がしいろさそれなしているようにろう かそいこめを育っているめかくら星のまをはらちにかいし きれるというというまれていては一たいのきもったると さいちょす うかうしをはれかくくとさからてんながよるれるかは うできてかららいちかいしはしまないらふるのからら

いろうさらす はのあるたぞろぞてるいん かのするにきのきかぶを気はてよく

もつけれるでないるるではむこのれる折れってるはく たまさな。垂載條月まる一名のなどをはられなる くをけついか 生人類書養要日、九草一木、光多五一出、惟雪花ろう 之用いし 出、出、辨也をへと、のそというける きやさてこそけるのかれそちち

かかとけるなけるかるとからはかきりとられる。 悪とち、見あるかるいったらかっという

雜妻

を、か、と

〇いなつるひ 和名動る一点伊奈豆流比之學出 火かろというとまるいなのかははるれのとくいける 好。如うこうかしる好いであれてそもなくえるは、船かと

〇のし アダナ四いとはろみやさるのねてよれつめーろしな 〇のす 日ををかりの内でもまっていてからなるよ かきととよろうかきてふしの対抗し

〇ちふさ まおまれたって」まではるしとさらりれの立 なれる西切上人なりによってきているとうりしゃ そうさかっきれらつくさみらうきをえることなるい

遊絲

〇そらゆう 万れそのかられてきをたえてしっとい かけろ小陽冬蜻蛉と同川万多十七月了名多 ちのいとかるいとゆってく それはまけるゆうとうというりしきのとはで かるろうならうろう

東西南北

こいのたてひれぬき 日の経い东西なりのは解れる 為日横之 小し、万一步引者母山い日的路のの以手事山い 日社辞のとちゃろの成務犯去、い、東西馬用鄉南北

春主神なられるくいきままの名かう奥成物日春を排ふる時節 ハラースの人のかられどまずかでいて

さはひめをあかるやろ類的をほのかよう事をで 表を除るれという からから 日本のとのからないなのは

あさよう 砂窓かれたろかよのめをなるかを状あの

かけるとうなる

かたそいくいできるるの名しまかけろふ

〇きめし 神かおさしもくとおはるころでといる社

うつたひむめ 随自おようなうようはくれれかあ はかるお指いるのかんく着らけれとこ あるいめ スサイを きゅうかがら

〇ついいめを気がしたいう

それると 多素のなれ つやさりを上京は秘をおりていたからとき

つきけるのが下げるとも言うははるとうとるな

あとささむ

だたらひめ きまおったの

ないからひめ 芝麻 百る城 油のそんめ

我呢 提出以內 挨奶 多分此、面機活送到湖之遗事之此的明初之 意然いる事根はこと巧要しれの上と、ようによるとう でと七夕好七班と了完成的多说文来得 るる既以嚴華犯羅注 る七月七日時看子地作樂寺 たくちきのあるいいわらいのあるいをりめる残国としてれる ゆういかなっととは事なるしまっきかららぬい まれて、大園の勢中よいる砂変物がそろつそりを入たり後 そくされるとき、事女類聚る。女郎呈巧焚香,引拜 少きそのにまわける、既然はして、さいつからくそとなる 小金盒中至晚前視鄉縣縣稀密以为将巧之多

なってからしん ちこを対める具きおのねをいくえけとえていろ、微れい日 七晚接好的了之人多的所一秋玄晚多天被多天晚鄉晚 後れとあるを構めなみになるし、原となりないか おとし花のなてねとうしてつとうしたころきかるよう 事記る今天相機姬神織神表了一名るようなと その母とはるは後れるではるることの素はきんとのお はなっているとよう、佐子明をいではある。 そのよう るとうそとうべきはある。七夕る万人もそのとるまると 午のは八水をてるあり他のせをなれてたちょうつえる 一つ対置させると言るはとりでくて他っちれいもくねるの

きなけつ、私をますいみ等ないるとうもはまり

たまろしけいやれおえそのなくる

冬主神

〇らったいめ きまがるえのぞ一写言れになるころんか 一方を染れたしるうちんめ

〇去らひめ一書文青女司霸可志良好佐保姆業 守神立田姬志良姬已上四季王女之

冬朝

曉

いまをしけせいくのまがをうるころやあった いなと、秘密的とうとうられなくというとうやくまからのいないといいか たまくしけ いるみめ要けいる。循系の細さしていの話の細くます あいるかくはっていれるもののはののよううかってくて ろいかときるめいいなときなしいおはみからとで見るあっくえ いろないくてえたくなったといろこのでとうなはしいいと きひとううとく教自とよいけ自の我しようべし、方十 いではおり焼の名しる

からみところりなくろしうちゃめはなほといいるところ ゆうがりできれるはみたのるのなナとり直を小のとでき

朝においま、秘戒がよかないりまかさろうえまでたるのる 日 そうがちんかとい。彼者誰でとはのうにえかけるれ 〇かもたきとき 万楽二十、あっとさのかちだきはらとよ そろだそうきはとうで同しいっていったろうきいタムの くなるといろ

きりそめられるようるとうとはとうち たまいこ ようなとろうととうによう

〇あれいにきとき ほれわるそこられのどうようちゆき そしきそうれずといるよる! うからいおおかりしいときておきいいきはならくとう

のむつうちとこ るあてはれに決しるからっきゅう またま 「おもうにどくれてふきてる味のうたいっうちばもちくちてる

斯日

〇さす 仁徳紀町日とよる。崇神紀よ明夜をそれな しろらめつ

〇さそ 一人系第第二。からうるべそころのを寄りたった うしょうが、着十回よい、さそもころいもという

一一十二月異名

さみとで方

としろれてころとうわりなりのきいるまないかれいろうの

られまり

気動力ちょかはらむかまみまくえとはろとしいろえらし

さしてわ

はつそらり 「あせるやううなうないありえもうしくなるちりれ 「ちいれふうしなり、きまいさえるしてみかでろうと

かそみそめか

そつはなり いてもれられるむとうとるはその名かりやあかり

いっちから物えかけれるれたくとさるやさらえゆり

和是力

るはか

もめつさ月

ゆる、えか うろいそのかるなないるとおしたさつからあってい

ししいがてきてるるとうなのには ちばかのころもうでい もえづり

うたななるとももはなければらんでもはらして

をくさかいりできまでのお見かれのなるるをかしきです。成本が

本月力 れるいちいかうつち一番のもるをきしてう てきらうからうとうるとうしかるけれなることから 一号でそが額田歌きっちかはまかくとうこ

されなさう

「たってしていろいううちかりおよいとううきやかうち

ゆるみ内 えは力むらうはみ名のあれむずくない他やとくし

大ろうちょうちのられるえりありなすかの あれ中言

さなこり 受等沙田

さくらり 「うそくもう でしいろのたえかかくて うろもあくろれからむ

それをしか、月 「なってくけらわとかそて扱りっとるかいるでおいって

きめいろか できるなー うってからぬからいれれてそうはもころとものれのもはとう

四月

これてなでわ

いろしていかってとうさはなるのをとうねまかれるるの人

のをな方

なってカ るかろうるがあるかとめかられるとはという

えとできたないとうてるわりきぬのでかけるこのない

すなのこで内 ゆうえれるできのからからあっともなるかろれのためる 「るなどるよかきなくらなりったすこんはきぬろうき

多谷内 多来有 多日

で上一景を答案る数多であるい

五月かん あるう 「はきからするですしてのあやれるうになからしてきるとう

物男は内 吃きたさきのでよう

いてして苦めいきなくして好人ときならのる力あのと

むめれいろ月 つきみぞ月 改善力 たちさな方 つきるれのでれかてみるとととうや月見を月といいていいかり こうさの代うなりなるとうそてきのよう のれをいてん つまといっているのちもぬみれれるからをちろうなら

いるいくれた 「はちちっていてうかうかなちりなかうちょうと

きべいいわ

まつりだり るといれてからいっちるるなわならろうとうさ

みせまち 打

かるから内 「おるかりなんちーでなるけやはなりけるろうできん

ここなっか 一友あたれてれやて 多電好力 そなられるっきりな

せそのそり ちうけらいはようえをしきるかたまとうとうると

そやしれかね 林鐘六月律也。呂氏春秋注、日林 之音應林一鐘也之 泉鐘張降律也陽气衰陰気起萬物聚而成竹管

めてあい月

「たかとくのきてるの用なくていろにころれるきしからか

りょう より なきれ

いくけつのないやあってともないよれたろといれてきれり

おきてわ

ふそいらき内 「肉なろうらそうともおるみみれるかりをからそう」

たるはくカ うれていれるなのそうろかけるようかさなくらは る地方

をえなつしな からっきならかめはしてろうませまりれるかちえらう

からとろうかろうれるてん あそろしましからん

してなさり

ころめ内 こうくときてとなるだろうとく やらうけられないらっと

とかうあかれ 林地之門作也,名民奉张隆,司 てなってるでとういるはりるやしかしさるやはると

そのいろ内の州内 あらか、どかい つさえり そろこしわ である! る除力 空争地口红路力多的班子 いろうしょとかきがてきてきてれるとるではしいなるのをはな 一人れのことはゆるとかともちろうところそしれれの力 まるれらってしけっちてをとろしてかはあるとうれる していから、おのかってのそうけれてえてかるねなんろう できるー となるまれからときてうつとう

九月公司公公司

さくされた 「そささやするころりりなうちきいよしまなるこんくれこうさん

せえちカ 一ろうろうかきそうとうちのあかりいっときろう

ねさめ月 「夏田らすなくきるいろうとうやない、力ないろがそれしり 「よっのやかまれっろわめのなりまれようこととでれるま

をたかでた いるなっかかしまうらるを見れないろろかっきある

これのしといいろろれたをはまるとかうちょういのかろう

きすらいむあき 類書養養抄私九月也抄末也り として月 作务多人 ちとまりてくうかうおけれめるろうかっというできる

ころからないないない

たるるうで月

一で方してかられなからからになうころれいずかとされなり

为みさでわ かきかろれのますおそかりてれまかとなるがられ

きぐれり ちつきてあってけらろかあれるなそしなるをはらう

そつきもわ

十一和月

たゆこをではてか

ゆきまちかとかろを対ならかといれまけるそかうかうな

一山にをおかといいなりかとてしるいてあるとう我

かみきか

出しふでは 「で方」なうる神物の神物力あずればでのとやいろん

かべらか 「はいこまなりはかってあけるべてるしてからい

いきこわ かってきてとかのまわられ場内ころさをさておるのうからっ 「そうけるでいきるしょうでんかってそのようしますん

でしよつむた

ははっちかうくよとしょうむたいうかられることでとれるのうさん るただ きまったよう

かやこう つろのうななといけととくんをはっとといこの月はそろうなろって

えるよう方 引き人はうずれまけるなる力がかのうけたをしからん

しめてつ方 「ろれてゆくとしなるとをなれても 行りいそうしたる

ころゆ方 うちて とはんむなうやほのんてあわれるそろいろそく

一きつうたろはそとみそくこれかっとうとはをはるのろとけさ

で一つみ月 でききし

からてみから

よくいううりかつし、好も二般之 とえゆきてでいてをかをいるろうれいくかのするい いてで、康に子なくてりずらて、院にふうの用いまれ おかまからえるはですっついしとまかってるあしると

異名分類欽卷之二目録

沙石河 雅河南河 山が端へ 日光山七 地五五 不三山六 蔵* 日本一 長門三 大和二 新羅 肥前 春日山六 地行冥行 島、 奉八 が浅山で 報馬山七 三途川五 多武峰八 高麗四 九州 高岸へ 世末四 須弥山大 極為 松浦山北

我 毒土丸 左右衛門式 李治太 百姓九 六色生 洞立

春宫其 中将主 大臣六 新李 左右兵衛大 左右兵衛大 大夫主 後妻光

後夫九 姑妈表 公卿支 侍徒去

女文文 た右近衛中将さ 民ア郷夫 主女九 親一件, 夫被豪女

自田主 度沙波土 形道海村主神 天神士

道神曲 今神祗! 地神主 石橋泥 角田川十 水神品

溝。 名古曾,闽土 砂さ 大神五

產次

廣澤地士 水九九

夢, 疱; 飼, 脚;

月殿命佛古气姆雪海俗老水

五遊東

凝腻影

便看演出 老女生

吉生

病量 小型 展量 基 遊乳神相之私之童

死奏珍藏

家職指記

流人类。一个

まる 分類 動

選手す

通過者

正學失

豊秋津洲 观望國坎日循好蜻蛉之醫吃馬由此始有,秋津洲 あるへ一為相称はのからなってきてきる秋津園 よめり夫本集為家 くれつしょくなろうなをと 阿岐至斯麻野麻登とる人人其外高家了它多 よそうでななれて 雄男天皇海歌 之号也言主うきい、神代巻」もとおい後の名が作 してかるとさるやまでことれる 又秋津国とる 神代春ようたう而神武紀二云

はるるるそろとがそした

おーととれるのかの國 古夏記豊華原千五百秋水總 之地とその多い事事まるあしそろれる種の

國之子的 日本紀竟宴歌

浦安園 神武紀よろたう 夫木集る らいか秋の国をときていれるものこ万代今るととれた

的大千足國 是的神武纪了了 はまってはなられるろうちょきるでからあかい

磯輪上秀真園 同紀るほう

玉垣内國

かゆのうちつ時国れれるとととなることの考いますい からその古書のまと神

や一は函 ようかけてわる六人一方を中かっまうなるのと うらをうなとういとなるとれたわれやしはすせいとく 神代卷一大八州國一口本記竟事歌

やそくよ中臣後云豊津華原の水想社國平安國意思 きいしの國 崇神天皇遷都於大和城上那磯城 ちの けかろうまでつうはれ 万九かからそのもことかってなっきしはのやまでの国ので しようそろだは学なっかを多くは命もむとしか ひしょう自然となれの地子まるとかうなるなく

いたらはけたっとのか現存六店といけるはみたっとの正式でと いちてろれ國

ニノニ

あめにちれからの一国万地らえたちのからめしかっちっち としはないとうろう まといのれまをい神やてるべん

神國神切紀云東有神國問日本之夫水 れまというようしくうなさくあるうとえのまとういからく

そろうのやるでのか万第一雄界天皇御製 そろうかりいちかけくろういっと とせていかっちるといろい でくころやすでのまいかしかくろもさこうをとう 又そうるとはうもりが一日本記意宴歌る

五转道門流國 法去今集 大上天皇 つくうけあからちちををはのたあるあそうけるとこ

〇秋津羽は姿の園 愛は海集 一秋はねのそうとは国気でくれしれのするであるの

〇内本绵之真连國 神代纪子 ○勝根は國 言塵集よるの

一該國 秘中被 具三國古谷古備一人人及地

ち選の方代、雪殿奏用以祖田母本集主線結及 とそれは事旦台原移都父を

〇 ういふれ国 性靈集盆田池碑之路る與有公 田地两尊鬼子之州八島初導之國三注云初

ニノミ

大和

〇月八八國 にくるのはるの 産之州大和闽也多

和日本纪白筑紫洲此地形如,木兔之外,故名

之本鬼鳥之名此云都久多~

〇古備 前中後直三國古名古備と公古夏紀旧 支記日本記等了 和名致備前於備中於 備

神後持ち 古野果生を

一光,天皇韶校妆者直指火家两指火住之即得 〇八國 前後本為一国無行記云十八年夏五月從華北 ○ 市门 無仁紀市门古真記市产天智紀始長门とるるろ 發松到人国於是日沒也夜夏不知者以上過見人

主義知非人火故名其國口人國事 たろしとつくるも見るで見るされたらいけるというも 八代縣豊村亦再其火是誰人之火也然不得 もんろうとかをかっつ 者居天皇問其失光處四何謂也也國人對日是

のす Oようるとがくとる 散木集小か賀守成婚國へできる」 いるした 堀川院次良百首 いるーなやそでもれいめるた よろうひなくはくいそくはるれてとくそうであるろう つ他のかくきぬとうひつちせいいく といまれるいあるとちるしょう

百濟

くたら日本紀前也神切紀らるゆ

ニノロ

高麗 新羅 きるい 仲良紀をの崇神紀、鶏林でもよう てま神切れるの

世界 くれいは金宝まるおとはとできるる

かちるでとれりなるを満まなると人

沙羅林 活の林 佛城所出事るり 歌尊涅槃よへくとにま 村品時は愛して自るちのことしま

真途 るれはのよ

られるいつと

よりつ国 神代巻了黄泉

ちはひのら 万十二いきーかのおろののうとがいる きてしゆいのかがあけいけらから 製中ゆる 生丸

こうと 第一条事がれをつ國情泉はあるとき とも四聖城彼岸とて其前を海りたとうなりは すてさせるといういろうはられ、そ彼岸まうき こわちく 久九河川洋と一温鑑了美別有と うとしい高まうろんなるとっちけさくうかと きとしたたとろう後于山八温船がさし朝の して底なくはふしてからうなだせかるさいは

三途川〇ろれちけるとせ、大和知語はいちろいかくでも 注言るきちれるちせとい三途川がりかとうと やうめ、あるきちけらちせがたれるとしてする

○そろり 古今

極樂 いきしたら ほ氏推り本の巻ころしいとめかいわる はあると雨とあっかてきろりはあるうないかっまる あいるへきがっき めとうのそれをはしむかせいますしかろるもとむき

地震

きないでしる きのひ 終国ロー

公今 推古纪云七年夏四月永明幸西地震舍 といる有成へし 屋悉,破則会四方俱祭地震神之地震の神

たうさて播かけ高砂ははよういとううけられ きなしよい様、成山とこ本文ととでいろう

後機集工意性は呼んかってよめる歌る

あけいとういるるるるなれえ上のころうれてからん

是るくきろう

むき 八季で日本記しやすがむきというで

頂弥山〇そかられら新譯義送盧山三拾玉集云 おそろ こやのふるろ 八重云のみたろけがる一般未中す むきとよむ事 神功紀欽明紀をするる

て佛の出の小園なりる~雪玉集る

いろれののであるでは国じり其中うと南瞻部州と

藤敬 鸣澤高根 常盤山 塵山 二十山 三重山 一まちひい人うるやい人なる人はそのうちれそろいろのと

富士

あろろの 羽衣山 でまなるら 東山 なるなる 未通女子山 たけぞう 新山 見出山 三上山 神路山是

身子山 國計溪山三

光草山 極あるちしを 春まあるという 红葉洞 ふままる りんれかられかられるとってるる 春のゆくえるようとうさしれるされるちらめれこうし 和州幽考しきるとうになるとうらとることと お胸の月がなる色よいかまきはゆいするとある 一ちくさとりおりの観音いたくないしてやく れかな並うとき~可考曾丹集る

は修行してははがずけるつるしきとわずりけるこ こるとはうていたきれなってりとぶーいたくかての神 内はうかくききしのいれれとあん

こまはくいけるるな合きいなはのかいきつる を補山〇質中壓山 万葉第五 とほの人すろうるなに こいらひきつうしょうおしるこの名を同学らむとう という きく国るでいまとうとは利服うひきろうさとろう かくなのらいつくでもきてそろうまのにもく光用し

日光山〇ふどろくら 性靈集三、粤右同州補陀洛山上るると 注曰,旧名二荒山改日光具音相近也又之神

陀洛和語相近也多了好好

加茂の神らとい、校衣二

鞍馬山〇くらぬこ は鞍をらねってぬらといまいうつかも 三輪山〇こむろめは三論らがみむろいとり、幸名所補な書 かよくけー幸長ろうで要を其書が被てきる~ 神られきのはからきちのできるいともかくれるものとう 短忠古曾的養春日福的老よう子別記委 事、雄 暑紀るるの 智之高市郡からこむろめらうそき好雷社岳と云

○神垣山 後灣東八

山端をををはるなりというのとという して古今上海はれるとのの方林東小神からよりまける るのかのあることなかとうきであるとうないろう おもとうこうとからなるれをれるからるのむって ひろうをかっとしてきるし るるなかないのうろれてきるとといういろくろう

きもほのであるうれ

たけともでいれのと後類秋で

○たよくで 他竟独立谷子い会水るり水をあとくうれ いそとなる秘密教与人九 うかのうそいなとなるときますとくきるかるがろうく

谷水

谷

あたういようなみ長れよりのはつきできますの 本様もうとなってなるうなるとうないできんできて うそわーは る見いまある!

水水水

農

すのわいところこので、金藤様

いまれないのから いこに 俊頼秋る

を撰る見いっているというというないかからいるできないのできるできないのできるできるというできるというできるというできるというないのできるできないのできるというないできるというできるというできるというできると

あるそれ はくいとういめもうと

龍

湖

高岸

○こといる子中かんれかけるやるまととう のいきろうと見れたとうできるへ

こをもか 未改まる 小をとめるでうなとて待ち そるべるこむしいろ 年ろがらそろそこかへいひちまるをもゆがくころもと へまっれというできまれるといとかりるかんこかっと きるうし ておるとうなどかるゆるゆうむというるもっていると すなのがくれくそうしかんろんれからくっろくめ

○野守れ鏡 ゆかり有る水がいろはかねるむらー と呼らかるてといきいるようなまけるがなりいうろう てかくさてつうかやそとでいせるかいきいは、は、みの水るえ 雄客天皇と中帝行しのひろれる清書されてる

ニノカ

いるやと 美傳秋云生して水の美名るうる くしるるけゆうけんえてしるろいあるいもとってはっくろ をある同一万条十つるからけとうけらとうそれる 仙道设水面鏡けずるう 詞林探禁云ひも落と 守れかるといりはなうる事意動大同小美 うほうてはきいりよしましいるようはこるるかとせ

水

一はけいーとはより 小のをとのでもろうかをで見る するかいる るないのからからいないというとうとうないのかっているのかっ

個一万景好死よおそい美後ととき之一燭明抄

い水かういつきるなるもってかこうかとうこうと

ひあら 仲良記云遥遠之大海曠遠而不見國了 〇やら、多系生はしたそのはあのやらしょろうと うもくい 方は ははりよるあつとってるうとうい けらときころがわかれるてなくる ろきかろう ヤトア風ではをとう契件设

別はをもろうできるというのかけってるいのまれい ○そろろのろー 新撰となる るべんのーというろ 我屋川〇了了三川 大掌會假名記云荒見川对了人 纸屋川かく上卵以下系向で枝は事うくとす 多項 石里 ちゃたつ 八書師物回一堀川院有首」 はるまでるけてろのうむくろできん

111

上崎川〇たる川とい 重之集る山崎川気たる川といる 「幡川〇なると川 行乗の古今闻書房は二八場川が波 川というい場川と今所謂放けいるうし がつくしいと

角田川〇あをと川更汲日記むとしときからのするでは の山野河海らやらけたくひいろうも有えてしかると つっていう中将けまったとといとありる 名野 浦と云古名は出るく是名いようと をはくさを但一挑川八泉川とれり梅豆羅が松 まつくはのたろうれ川かりとうはくやしたとからくろ そろりとな在五中将れいさてからんとうとろ

をされて のうなくの国 はが物を云ようなくけます 廣澤池○大汉とり了大汉八古名な了大和知语は監命婦 ふるいあしんとうと名古智れ関の美名う いろよかもいろしたるろくそれが名ころが関とい

波 真美 老族石元 からいろ ちというりできるとうであるから 大はのれの山くれくるねくるはっちくるとされてきれ

○てひち ほ氏は 神名でこいちとかいきょう 〇ひちぞこ 和名敏土 和水也和名比如利古 しなくろ、大はおいまれのでようの

うちろうゆるのそのそうた 日本なるとはなる

〇うひち 神代卷逐士

つうれ といとうきともろう

はおうこうこうつきかられきでいるからいちょう

〇ぬりで 為尹千首

るせかときなけれのほとしてろのぬうにかくまるなる 安中ゆる 文集三昆明春水滿亀尾曳 塗塗

ノ字ヌカリとよろう

○うなて 神切紀欲润神田風溝で 童家校よ そいの国、新難さらん井せきる さいくとるころうなとととといちらいろうなてのかのおくからう

度酒水 道時流至 花五年工後利和臣 川でいるでいちくのお後でうれていのでよくちつ

る内面でからんなはるいろともなるだのよう

も撰ると いいもきの けるれや りきみや たもその いるきは、写得っまいうきっようした状ましてい あさちさ、松をまるもととといかくなられると 幸をくてあ~とむべー あさるとあらくるるとかきるてえらすとせれるのはそ 各門縣為若如柏門

島 道

てもで 松花松己もでき、身が公言 家持

たのうたつきたち

五うとは川尾百角、物はいの藻ようつると かららのはってもではせひるろれますでのたくしか きようつくろとかいるをいるいはいるはこう あういわりきてる人がきる一色葉和難よる

石

いもとうは

月七一 景行记三十二年次于拍峽大野其野有 ほけといるとなっくなとういあかりたかとるがか 石長六尺廣三尺厚一尺五寸天皇前之日朕 そとうかとけためてくとけるいしょうなしまると 得滅土蛛物者好蹶或石如拍票而舉馬因蹶 之則如柏上大虚故号其石曰蹈不言

山中 〇いくで 日本紀だ神天皇帝弘」 ゆうけとの なるのいろとるう、秋日本紀云くでいる也いい 助後ちという

こみなむろう神中かいなむろれ条下は小の下の るおもなっているとう

○なぞ 武烈天皇歌」之優世能激遊 儺鸣哩鳴 砂地 署

天神 〇あまりやりろ和名致天神教室 〇一点的人一神祇

天一神〇なうから 和名敏云天女之化身也言為氏 ○くる川やしろ地神,回祗、夜太月

破

そろれぞうるようかなら神らちょういろくろとては そろうらは神のあるなるとうとのいろかく うへるる中心中神長神西设かる

〇一をめるといれ 金素まる えどろいしためく 神が一をめるとれ神という天一神のる 望れ雅 」王相とて一あてよい するめくらこのよ 神という大和物はるは争えつううとかる そのかときけからる事けからうかろ がふくうとる天一天上とつつと出さるかなる 日とう が日本地点へなどなど

の内をこと 神外で、中華子と大事中してる中のの

海神 のでとつるけれるころとはろもろいろまる 神のをうれるとう きないないないからいる

〇小心と年中行事歌今 そのその神代紀生水神象面女子

と神 ()はよや乃城 神代紀生土神植山焼き かつなにやす 同書と植物神多 えきれずいといういろのないるのかっちん

〇かくつち、同紀火神軻遇实智を今俗物の集 臭なからされとうつらは神のなるようなろべしかんで

できなしのか同一 いいかのできるできる

八年のけるい、又文生火産虚為子所美

道祖神〇多八代神 和名敏云周俗通云共二氏之子好遠

一一 造故其死後以為祖界加縣

〇ひきとけ神 やえまるひきったろくみもつらる さゆるとて「りってもかくら人がもあるのひきもれる

これのきとを思く、玄自治されるといるようとしたむけれ神和名 致るとの ろれでたけ神道祖神を

しちょうれ神 ちつけんへんを言る神へ やとかる りかんだっているとうととはあるからい

けれるいる一道とことも姓氏録」道方氏有 うるのはのうでいれますあるのとの地はつろそろうなん よきろしははるとりむし、土佐日紀よ

本神 〇~ 对方神纪木神号的句迹题 蘇岡 つむもよのれ 奥儀なっむもよのれいらふのれなう でんまる えるきしるのれやけろうべてる くとけらのからうくりいっかれてあるよさくとけんとどうべく 産電と書るるる故意電源の第一有的格送多 けしきもとぬえらな えいいとうのみそうちょうきなきくなけるにくかん

形代

〇そろへる 家被ちよ ニノナ五

△人倫

450

でこかのめ 姓子日朝始射山有神人居下心 同とねてまるようとういかなる一拾送通過

よりきう同是又は多ける之的物達美洞 一方代といきいかとはよたのむるはるいのは えっこう

月時雨中とつると

しかかりたみ 童夢かりる 天他のを我を今後ぬ 松送にる三条院内はしまるこというとととは 皇長太上天皇とむるからから 信言の神 もうきーと思うしているというできれては

あときる春を音事青律なといかいろうろし は国もろしてなる一位松うそろろ

春节

地传导来的 多一日本 かでは他

親王

いてくろうちのんというかまできょうとくと は力於此花、非是人那種愛樹枝頭第二花此句の

〇叶の医 漢武帝と衛子梁孝王といかのでううか くらんいう夫木集」、多がほうける人品の

からいるうとかってなめままってのこれよべもめらん 秋力京 拾谷松山中宫長秋宫亭 支木 であららうにきむられてきるいける

ニアトー、

中宫

中古 範五 台 民部と 民の雪 〇本 はあし東西中日衛生衛春王州北京等子の を一きんながれる中方長杖京等 夫太 さいかられのようというというできると かけるひくまないけからてきるの山のう あしろのたきしのるるしかとうのをとも かきかゆってまるとるうこ ほうのは、は恐い佐のまを経むる人夫なりる やくらのつうさい、空戦う 大馬は、代やてるそかけならくけるほうな れんれはこともするとそもり 者はなるないかくないのうでし

三位 しきろゆき 湯をおるの 〇三笠山 奥儀妆中小将とらからろ 馬内侍集 きいの位 重家集工刑部をこんしてるるという からそうりきいくまいいいる かり、ホハモくあるき るきはのそけるる人かられとみな人きて後中から けーかってきるうろうるとう ういし、「あかけるてさべめへきえかるったねらん

四位 むするれの社芸が行い四位の他よあるとれ 正暦已来四位の他人党をあく入降一九三位 5家服令保坐、他後坐二三位保红四位、快来於要

かゆつるろろ

三位で信うとはなかははしをこう みとりけ他 女服令深禄二位后原氏し女者 さいしは は格送く つきをこかいとかり をおうとなるやうるきいしけの社 きしれるもでるといるといるでも他を さしてどの神とい事をなってるしる きう是書きこれからしいう或人云一信己 今い官の言早他の地なってようつまるとうと れ他はするで位の人も王信の他を利やり」な 下回位已接上各村一橋公意之色的他以名 せるとははのろいまるよちかれれない とな

五十五

よみ務か位うて 及上しのかたあられていると ようろろんとう

六世

左右無間 左右近衛中将 〇兩個外 書云左右近衛中将以 体 华人 大夫 すっちったと いぬ人神代卷云是汉火酢行命苗蒙諸事人 きというされい大人というるる~ 延喜恋よばる 個かし了帝王出馬时时馬信站左右よう子は 等至今不離天皇官墙之傍代之吹狗而奉事者 奉ときるいれの個的をは引つきてといか あり大書會は日まいす後」居て大吹むあとい 也三年人於外門の警問了外门工洞の的大

ニノトへ

左右兵衛 奧美 みったらで 左右衛門八禁裏の作门と言る そうなとりつくととう一言語語かる あるのくるから いからもぞと云宮门い流地ようけい此名有るなう 事はなるそのでける 一は水は少的をかりは水きは時をい

さくむし いちくゆき いちくゆき いそ 是新田部真範自兵衛府生選任少衛将之時 かりはまのなのあるととうところのとしまかます のかなうると かって いるなない

いするいときつちとしれというをすけるといるり 名多人多多一

からうまでもなのまませといろうとのといばると ちいしかとく 山源放云百七月松墨纸三六九 そしからし 有かとうけるとうおあれるこうたう 京八様るころ のう 生のおるからいはしきくき又え

そろうそくさ ちる丹花をころ帝王ならう れほ人たろ 是日本紀の到了万致色 ならあっくさい そうけないけるきっちあるっちれさから

ニノト

自性

おめのすそ人山家集」うれてでも かられるをきろうとくとしかいなるころう るのでくしつできる 万九 あくきのうか! するるるますもあるはいろいきへきあめのするとく すのうとはいろうとそろうとろうかいろうしか あ色のまそ人等民政公

智利

〇ひと人 むりいれば国とうある番るなる 本町 るこう せき いくよくり きかがき 百人き 万土 でるかるあい思いとしなく人の す事建のたろひとをう しなう 民部文山云九飛彈國每年真面丁

多一けや一 鱼名妆鸽语抄复美妆写图一上 景行紀哥云波辞识禄辞釋云端清也慶差詞 よくやし 歌明後は同いさるあかあきとよい いるそれ とはむる国之产炎中云爱字之产今妆生な かっというをつやしも同るき 安神さら もそのっとしつなる日前國るで、京初を思加 也とありをでようはるり紀一年八はいるこう きるよう考えきいちきるとるるまれひとりなっ やよーとうべきっきる せてを一や一 請语物目

てよるいろうろうかのまるいあっとたっ

くからう一利よといきれてもいまれて きょうかるころろろはといるといううちょう 参る词といほと一俊頼仲實清輔なるのと

からくさいで書の下のあて一後多妻なろう 北大田とからからと大きいの面 古者以弱草喻夫婦故以弱草為夫言 御建哭之日弱草吾夫啊怜矣自注言,弱草謂 うるようくるれるとなけれるいりいいこ るははるるるもうるのといきいまないよかりと いう夫故書しるというス婦とうちのなとい

を確いす あっとめつりいとうくましるはくとつけらう ときなース万宝ると春草春草青草なし書

後夫 前夫 ○らいを 同云後夫松子 (生でが 和名銀顏氏云前夫婦を

きる たまうつまれいるふうちまくい妻が多って うあいるはさくわとからきとう 不ははるいるお前あるとろうちきなる いろいう清浦朝臣も妻のかるとぬりな

〇こなる 神武記歌日佐夜離時時候

シラニナ

釈犯近和名敏同一实冲的 马波囊於上鸣丸

発しはらいなうこなといと日一をようつれ事 鸣啦之儀前妻浮小浪長言無音と多大和物

いひかっている

野中情水をでの妻故いいとき

的周報之古今いる人の世中のは水を

○をむなる 文字集墨多派正嫡故以接為称本 名平無奈女言

妾

〇めしらし、大和物でるさい~えの馬いとうと はまってきていまでいっているのはんしろ

日記るをのまれめしくくるに係氏小ばるもと どしうとめきて有らるがは名のせるという えているのできるよびとう 注意大きさいといれる 了るいるひくさむなな人者なるとう 蜻蛉

我

夫」たらうちょういろんであれているというとう 手 しかいひ 童歌かる有 仲實哥 くろるかい もっといいとれるともしれけったくら根独きと

〇 なんける るけ 今後するしとうちちゃのはきるへ おん うるちはないころとろいろうとながくこといや、せるやそ わめるうるもとうこれのでうわけるけるとうと

ニノニナニ

はりなきる枝からからこと いるとなっていめるわかのったまのとえんやっけきてると

かろる枝 言塵集

いろねに対は日本記る いろというをいるな同りからとも

料

○なっち 経外紀云坂田大路王女 日廣媛 生三 したほい子 大松物野工大膳のっと公平け娘です たけるようのあるになったかいているさいのえるか将 からとけるうちしゃうもししとういだろういこと 女長日神前皇女神日、後田皇女三万十四か人し のごとといてきずいろう。注云大子へいちけ姉へる

○むなと 多家ませ かちろうんとのでむるころと よろう安神るなってきてむっとしる

後父兄第いか

さくはめ 医房や設定 治標集工

今まっといひしけるないとうくはいけるでしきはあれて としとはうい光系の女子でうてり

(けーや~ 対域をない ○ひとでう一族でも ○るべーやく 親戚をふ ひろけゆしくえんそく春族之愛化をつくると

たよさめ 八雲西粉るあいるがいろとう

○をち 神代巻老翁ラデときと あまませ さやまれる ちっては日まる

童 老女

○たうめ 東州字を用源順天字本書之古語之今呼光女為太字女 うないてあけまれ

変也さし 万次音子をひとしらいろことうかっ 和名金易養官奏調量子無髮然角或好

千種ようかると十二三というあるまたいろど

〇めなー 別的後妻女がり これ図のかくさの

をとかったをう

僧

はるりいるはまのかられをとなってする

のうないるうままるはははからないと かとうくることできるところと 持てしな。一般敗人なる。本人の一門ない かうなう 新国の形はよからなといるいきて下 かろろうろろろろのでのか 切のうちのあるはちょくともとのはなっとけてのしょう

るらが 古事記続哥日岐券賀由岐氣那賀久 そんかくでをおれるととというととう きれまる ありれるのめはをそうくと してわってきてからから うるようかっためのきならかろうはまろけいとうと

ニノニトの

私人 造人

山伏

俗

那里以夜磨多豆能事自往云山多豆者是今

盗人 くうたちるほぼるるあるりけもちのくったち かられるにしてかられなといれ王莽う时天 きりなる 白波戦るかると事人のしれなく 鳳四年數万人绿林山中よかくきて盗竊です 見い複るはいきるきしとれるるかく者用臭いゆ まったいろうるとになくしけるるとはいいますから できょくのくろいちととともすがらしかけるからて そうとうとうとうなりましているとうとう せしよう。盗賊となるうというと、長明 造木者也多

う 他八姓氏をそ一族をする。盗賊八年人 允恭紀云四年秋九月〇諸氏姓人等沐浴齊 くがたらい盗人の事之き 山銀大工事る とへきせいる事でいてるかろあるういまの名 得雄朝妻推子天皇教あろうしれてあくるち 戒各為盟神探湯則於味擅丘之辞禍户岬华 なる引乃るそい日本紀竟宴哥式アや是忠 めいちなとうなるのかってへて陸をとろうろ あくと、さきいくからとい振湯の事ときうるが 探湯道而引諸人令赴日得實則全傷者必認 る。盗人の事なっといる。名よってるたろう

1

うち、振場け事へ盗人の事と心ろうい 得武内宿林、たくしてくるちせしょうよんが はむを引まるいるころのなるの同意宴なる いる代のきるくるにときないうとうろうときく るよりるとうであるからからなるるで

〇ののやね とかろのたくいがいる家事をえるな人 高かくろ かづきめば要率 和名致本朝式日伊 からしなからしてる人のはみず るかなりながるやくいまりぬめのであるち いくあひとる、ぬをくあいるうる人へきてもそとて

海人

のむろうる 和名歌日演翁映教与性本次上等 めをしてときるかかつうせとう

2000 - 100 -国というのかろうるあるかっていかのはなるうそ むろきるめてあるいとなる。夫本集

相なでフ

こかちろろうまくをうちょうためるてといる ○ちからせ 山南島」 最月行ちであると からて人 松尾がり家村 ひやてくちょうくう なったあいねととというへいたと七文字コいち まれるがあり、

欖師

一強でくくているいとかれるくさいりつでい

111

真様ゆとりめ 催馬楽よ ろまくさぞううへまゆ とうめきないるとしといるといれるもと さくうてといといるとさかってとうでるいまと

居理 乳田田 つちねし 〇為~~ 源明多 数生及属牛馬肉取賣者也 O ちかも 北部 今るまでいるとうれる おるろへー おうからうちょう 辦色三成云 於母然如 今按品乳田也 うたかかてるうときよ彼かとくいほち

〇ちも カーニ くやしくりおようなっなっなせるう もないるときというようをのか ねしれむちあめさとてとるこ

くがかりなってきというとう はなべきとするれのほひかきしまるというのれるまちょうれ

〇つかね 和名動云奴 都

○まうとち 古事紀云豊玉毘賣之徒婢 おはらそる。深場学るおはよそもろうつのは名

婢

奴で僕

あるきなるおはよそもからそうりなとあるときいおうくかう 今投小此哥夫本事よう何しおほとそる思想問出矣名ふる いきかきちの教島ふなるこれあとるきいされるとと うとれるおはなるとろいちは英名では風しなんではいれたな女

〇ううきめ 漠語抄云遊行女児和名時又云啊曾一云星遊行 いちめれったとははのまるというこうときなるでき

遊女

○ううき書 続子我まっ一成あべいままくのううきまいく ()あるひ 〇やほち 夜發、燈碗六百番哥合 よいうくをなっるると、 うかきをけっちゅうていらくなやくさきとつれからきるとうる 行者知语る川馬をされいあるひとも、およかてしる

○たちきめ 六百番歌合「彼のろうろれてるるたいきるる おくなとれきぬうち

つあるける 同語合 後となるうれのおもよあるみるる

思へをはさいまうとう

山歌左方雄るよろれる本が明永集をあいるへいて

流人 ○新嶋中 もりはるる お路守城人のあるりで 後島 此御製ようもはいてはくの事かるきれっ からう ひと上逃去了男子常男 到者像成解云公住群 おるるいまそはまるとるるい 宗秘 いるがいひし ほとの走追納ゆる遊女のかりちろ不用幸谁くうちしる とすみたのでかくよけっきるう 微冬云、た流移人至配 听六載以後聽社是 句意此是 追考 万葉第七今 事去新導守之麻衣為乃問乱者龍取見と多う な院御製 うかろういかいははよかきのならればれてろしてるけ

被きなを守っせっかをいかしき、生い流人のをいうくろう はおきれるとといと国の窓が防ぐる兵がたろしてはえして ニノニナハ

くな事とさるを深いるではの事かや そあるのえる 支水系 あいまいるいははひるな 行うがなるうくくまれれて流くけるようできれった あのるれまではるきとやしゆきでるかられずい しますうきいいきずそうけんのされる となずちると がまるとまる いっくせんかひしはきったとれあらるりたと

すってるかつされらう ほ氏行手はむるうを派 ○なるきは 絵送をよるなるととせあっていらいく いきとういいとうことはあるか いる年朝古今とは、ままとなっちらはとれくはと てきのうなまをかつくろうる 流派み人もいるいる

のかるの 物故情居的者在今份工旗人状からあとるいれ なっになかきよかるるるといるも早下はほと 和名鈔云加多井按口路供居而艺

第平なうめき男 らにま男

〇棉好多 は後具枝はある 五節是學并外令以其中四并

からしかるによめはしける様なることうないなか ○五命中将 親房郷古今序注云むる一葉平をさる 篇が落してる常のえと通していいろうれる後又 大社為上人ともとりひて編みましいいる橋のす

緒嗣大臣〇山本大臣 江談抄云緒嗣大臣家在法住走追及五坂 東仍号山本关臣也 かくしいる高みまれからがみまてったとよいろ らうる命中将というとそ一说阿保親王の五男なですらって

惟成年〇無田午 新惟成年三十一种內外東之田并西京

朱雀門京中等更改

源道濟〇般路君 此人不腹之之時甚以優也而性惡人也仍不 人不可堪之故、称、船路君 可向之般路者天人無和順之日甚以優也同彼思之时

藤隆光〇大法會師子 号大法會師子者其幹極有成儀 惠心情故林也是江葵

濟時大将〇些鲜大将 又云好梅大将 古喜於云清時 大将女子女御后タテント申サレケルラ軟許 红梅一知也言 后一仍空拜大将世人云少而不知案内之人 アルソト存無左右下庭上被拜異年然而無立

冷泉院女二言

〇火の官 保在清苑山老云 东这时, けるつれ火好意と世人りるびたろしまし げうーのひしないろせるいてほとなくあるとや みった 官よるとせいこしらろのくしうてをで

藤原頼忠公女等子

〇素腹后 景花物隆美山老云 一計傳子むると る女师があさなろかくゆるもあるせる女事 みたらるなるめる事やそうの事よせくない

信義 〇双調君 信義八博雅三位の子なり式アと言 るりてきるとお后とそ中奉でけるるし

ひあるるとあれるかとくかっ おかさは一個人ちろんとくしあやりかを 近にくなずることとははいうろうなれるは 管弦者伶人不找草一て的的山楂的多公子 るの月行を使るむそその行務不られらちる知 明は明子城やて過る舟ありをあせらくます

らう天下皆双週初天と号ーろと ひのありずつてもてるありちなは紀を強く 七回四八月多七代教と名家了八八多感 はるうと以ってきなうろとははいうそれ

弘法大師

○五学和尚 弘法大师八部ははよく大左右のる でせてる。まれるとりろとういで上着画集 よねた衣のとよけらくてきるの字好きんと

永禄僧正

〇初音僧正 はくいるめをくけきや郭ないつりわ 考けん、地ってそき 此れなようで、かちは信むと

英名とうううう

圓嘉阿闍梨

つたるれけ写教 けっとなる人ことでからき 此人俊成也司时の人好了已上曉華記 らきてようるの人はまれの万名あっというとき というはいからはまなることをのなしつけ

· 松宰相公定

〇無月宰相 句行後於香物為九月十二夜 影地 私每內宰相多 上月四时高松字相公里多日哥好的是多人

兵衛佐頭中

好多成之已命草纸 つかけている法法 そうせては智らとちゃうきろとておみ人 かのするれはしというよみゆるうる名のおみもよ からきの多は位と考を付けいれなるよう うて範永等他るとい、井のたろうもなっとよる 时向河院雨會る お原地北とどいいる 影神智医名はななりいる 一色的 海馬 医路里

徳大寺左大臣實定

俊成卿〇なるされ入道。俊成るたけ道好を考らてい ○名な一の大将 童四社酒が名もなき渡しよ うめいしろいならの大わといろれるかとう

ニノミトニ

うろうるされなるにななるさとよってなる されるるるか大将とたうひて人は劣きのひ

· 我此下○日本紀房 紫日記云さるとは肉はといふ人あ 行成卿のそまなのなうゆうり成との他名松るるころの ーしると上無名秋 to see you will my some of きゃくとないえ有一とけいってせいるがれるし としめている小は人い日本紀でるてよるほとけ しるれらい氏出去活致人るようとのひてき ではらいろうれきつうととのおもうかいは やしうそろるようときろる思いのかられったさ 古民なる。大百様、

をうくそいろとると よいしていて日本記の為とをはけるなど

法福實賢工工

○ ひととは限かるやく ○ひきうへる 今物語る云を愛い小侍徒うるなう いっちういる事うをおくかきうるとるけたろ

法の格はいようなるひさとる人うひとらくられらう 重盛 〇燈篭のかといるおおでる東山の様はアナハすの ・うりなきれいしけむとはとなのかしとと中のうろ るやと中かりいきいやってたっとするいうると 花舎が建一向よーマッナいのなるなをかけりき

ラミ生

季仲 してくそつ 同書大字權師季仲と全了よる み 夏ううりきいはみく 風ゆとそからうとう

孝善 〇まはつ 你学代云右はつ尉孝善八号をはつ きちゃあいる。夏 ゆちはつられ 教へ

小侍任命婦

本 京女意言今案工協格送十 ちきちころ ○候款の侍徒 神中私去人人格送好他者小侍徒 好了是~ 但者放射之加賀守正定女入道二 いってのたときれしいようまうれるときところうか かまっついきるのとろうつるいさけるすると 令婦八候教の侍徒と中子 神紀の福子写る

そろそかるかはるとは他者なう

あるはずるとも人以上で 第二日

女時俊明

大目女将十刻かるる俊明八を人行事とな うちついきで大国みかねとそのそきいとき 発作を同时の人とう

津中國基本

為妻が神ら 随格送来よりを妻とからる事 袋曼纸山云於或か之テ人令張邊山右衛門 界孝善詠之 ウクヒスノハツ子ヤナニノ色ナ からるからるとでくなるころは 此春れ るがのできるはくてをなる。 味らしかという

- 7

由有不安其後不食成無他事業和哥权少又 ラ·~~神直國基有此座已秀歌被讀之 スミニカクタマツサトミユルカナトる歌 八読十川人名寝響又仍散遺恨之器

神主祐茂

後去智的神主 春日若言の社自祐為とり 多級のうてかく とうとて横コスクくろきい彼 おれの他よれはけなう後ま ちんしと 右古人の夏名とうるかるもう一代を記し る者的神らしそくいいける 人侵るやさしたくして進まのなるれい

〇西於八分十二級主网络鄉院以后以了夫 進一位/ 十割初了我らきる子 日本日本日 又和別のアヌ五人人一澤田別的河福世の 好死人八本京物でうるとうつまのかない 借西城榜本社借西又小切机 对传运~~他 お傍らくらいひ信答の行長と五後程者~ 曼名せい徒をあるる後者の小信徒もうい 慶運 添いひ海舟 到地的氣的 と 臭名

からるは国はあるもちのあるとそのからけって うるというのであるとなるまでくるとうとそうとく ちょう 一場いのおしたてるだのまるかまませたはほそや 洋弁 らい三十万

日とはは我があるとのろしては、はらくとうまなは、はくくとなるなははくる、おのしもいけくなるるないはくなってあるないはくなる。例のまなる、無いのであるなるなるななるないない。

はりころいするはろうとろうるけるのとる母の つおはあらし 数主団称俳がいかしどう夫本ま

なもとかける

がくならるかうそろけろうるける ラカイなく 奥なかる 存機式 おがらたけらる

とかっているとう人のまるからははなるなるないろうととなるとうとうというというというというというというというとはないといるとというとはないから

いろうではいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい

ten son

5

Drive Franchistantinelanter um

問き我の所名のまるのなけるのなべまよるは

\$ som there! I was the the the the the

初之を「そのうをはらからんれくよなるない

同受美しさかのあるさるのおかやきます。 おきる からならたたかってはきるくのかり そそろろいのろかろいきえもたったろうても るのわしなる人多味まる あられのを るるないなるい、 うとてかくさいその国題るもととるよこと さらうるとろきなしろっていまってまなものとと るも枝もちー

息をかるるういよんなあっくきるのたといかの かったかろろう

それる 石足龍脳同一 できまりなって持いようかっきまかっきるよ よいしくめりせい

つかさそのは ある あるのめなるとううち うそくもさきるのはい息ニカトイ風ラッハ きっかっけて あらてるの ある きろんちこくこと 13二神代卷吹華氣噴之被霧之

息

思

曼 しいきのを 息緒と書を第十一つされること こうちをのきちまれおきるからをくしくろ きをむるしき

ランを十二

してかるのそれらる 和多式ア

うちものもち 又名丹東急十九五 る おそのとうれてそ四人なるるからいかけった るるううというとろうちかいきともよろう

11 1111 7

〇己好了是 和名抄 小腹端 俗文云层了是 かうそハ陰上の暑

院等

指

○および 同書別納俗云大指と混きてるそ大 格い方はするとしてるろう

つなっ むき 同お

したよさ 後程まる 折つきをなるさるける とよめて

園 つよがら れ、有級玄関、由、田中也を

渡り ○あま~ 同お 〇あるひろ 同書計訓 うつは物語は強いようほもかうそという

月水 さりの同節風雅集る和泉武戸越中へするで 限やらぬきおうにきのたかいさてるみとい とるとううとて奉幣かるまとういまった そとなるかること

身を一れ雨 周雅集は たくしとからいう ききつぬる 後程まる できつめるうるち かるるるななないれるようらうとうせよ れ後のころの山がよそよろうと

与二年

读

森

かるろうち やかきるよろ かけさけるうは後属を落きうなけるお 1 が を等しまるしかをそのかなした合も ちなけくいさときつませるもさらないく ゆけいととも るうなけれの きろうあとましか さろとも数息こ万十五 さいとうてもろと

のまろうち 精参日生らる 屋はていけまい 一份言書院 或言事門財教会らを雪やけと 露也き今楽」とこい俗るといちもくちい 次もいうの云面皮正赤率是西 的失る 齊官忌詞云病 在須夢 ときろしわしろいいのそろろうちゃ くちゃしなくんとてさいくもいとあるれなう 多和名銀云源紫白色点成云处此年足中寒作

かくいからといっちのおそうでるとほは差まるうきいる のかくひやう うたか暖味をするきいなつうひち るやすいともひるないけありまけというおる いなってもうしくっている事のけるとうはかはそ ろういはみろかくのやらとりできのあせくもころ すつく ニノミナル

胶平 老 〇あきる 万葉十ち うろいつらまをかっろ そいたらでは独枝のあそが腋をなかき 敏肺氣一云 脚病俗云阿之乃介

飼、症; 惠光 ○あさまり、又言生でとき、和名欽訓 ○そくそ同常 〇 去 ひね 和名割 〇かそる 同云面皮上右岸是也 事具後をいるこうな性を

瘧? 〇わりるいこうやこ 係氏若事なるると るんとせることるへどうしれ名致症のま やそうさいいのひてよろうしまりるひから

いかかもうさといってのいぞれて上来でやる つあうしらさ 常花あきられのからしのようよう

ないるる

港落 是今所智はうな了此病長為的好ななな 〇名了公續日本紀云天平七年面十一月五事 一是歲不能自夏至冬天下忠誠豆吃像 被行せ了るや委考 子の別記」有 死者多言是意強みなるるへ

痘液 〇つどを ほ氏をなるとうとうところと 〇ちなると 大鏡第五云は小のうといるてもう でなる人れをくろくていといるとう うちにさてかろちいけたるってもとしいる

いつう 源順玄明吐養小児由哺乳冷熱不調

秀致也るし

〇逢の関 するつをおれけからひちろそい達の 実好いっても多り 千五百番哥合千四百 内部の有多残るのをそいって多数をゆへき とうちょう 達の国い会路は事之醫は励なうかくそしめ 三十四番 右舜蓮哥なり影如病得醫と有

のかへ 食祭まる わめるものかしないしく ○となる 松送風るる なるのるそとろう そろろうはるようもるからろうて

王堃 〇名之世古語拾遺云作男整形以加之言 追目言答注云男些形,男脏一形也云 りところうりかつきなことかろうろ

〇かねるるる 汝石集之姓母了一色死好全了 ○かぞる 古事紀飲醉苑由と為せり なるとえという

二ノ四十一終

きず古る 〇ひるさ記 和名鈔刻

磨冷袋店等現了車代 字海外音物語 後 竹客京禁! 柱 後 经 经 经 器計 居 墓流 磷酸药 衣食 港·衣海等等。 新教育等。 水道酸滴 练?堂党 地华 焼き 新標万葉 檀絮 墨、雜型 新俊撰抄 書詞 墙沿田艺 荣花物籍

分類

鈔卷

マニ

目

着了爾殿 泉 衛子島 傳音雁 麓 鹿岁 為為京原

獣

猪門鄉紅馬門伯西蘇門鳴雞雞 三 編 鶴 翠 芳 三

題 書 善 雲 賴 聽 電 知 雀

葭是方、角层碧之塘、广千碧、郭节 猫 原;目章 准

鳥,鵝鶇在江馬鄉往於鄉 貂之 膝 章 清 音

真的鲻嘴鱼。缀然特物,沙丝鱼 珠文本本

魚

始黄: 點, 蘇貝 绢; 酒棒。 新燈蓋 七かだ

地细鲜新 魚黄魚

塘,看到 紫金粉 禪二

寄海:部、鳟 居、鼠、陽、 マナ

警襲至針"鳣 十魚

菜,是是煙。卷,帆木 生代: 道,掛字 舟谷

鲤黨 斧尺 船 前・子と

異名を類 鈔

禁中 のむらされなりて 居 のそうろうきなとうか

まればあるとは老れからうしてなる

殿 のみあらる わらくさ 朝廷をうできる 神代紀宗殿夢之

堂 0やり こやた なるをきはうそめいともし は氏东をきてやったきのそのとといろ。やから 松花おる、朝忠ある「人どくなういろかずみそ

縣獵麓 馬舞樂等

> 虫虫 海路 蝮: 野生白分类 整 鹽力

编。如果如果我

塵=猿沈

羅;獲

戏猫 ニセ

○きっさや つかなるますといなのまっとやしかられんとよう。までき つろだ え真まるこゆるとみなされるのめとうにうる 家のまれ引い新持なるあへー やい既屋しいやしきあをり かずれとくたちも家籍のであってあるべといっていろ きとはもよっていると、何多地では、さつことのなってい

田家

きてならがせるとの 田鷹とうう こたふせ あれらからそといからせのもくにあせてつうってん

客舍 むろする 類聚國史卷百七十二難波百済客館云

難 どなめご りまるのみまな下あり

えんきすかさできていきなしられてんきてん 人も多板をかくらちょうい

されけるする、川る季が下るあり みたきさつうこうなやのそれできるれてき かをえるまでもされ

のあらてくむ 色葉和散るるいできるみらうるかさ そうてこうくろうかられ役をもちてきをとくらるは をいったるというなるちんこかのつりりからけそれれるあって

الدوال

ういろうかるなりるのかもほをあってくむとうろう

かくちもらけいとうかてもろうから城かくちてら というにようやカータクーケ面してれ、砂花おるい、竹を かくはしらとうでいう。下うでえん

墓のかくつき 天智紀立墓とあり、万多い多第九八了 ○うなわまつ 原氏わるうなわれるおはえらなときこれを のけんちょうのまというからなくめは奥差それと、他 なわきつとようでもないてかとなっているととうでになる 一第十八日村久都奇とさくれぞオクツキとらむつし 好はる。白氏六帖馬量形とき、文選馬量松とそう

いる外でしてはよけるはなとうなわかのというときれ

なるとうというというと

してきてきろわられて、秘花おりありることい事を の宝舟というでいい戦をいるすうというくくうと

らのたらよと 雄畧紀云天皇用号刺止之内蔵式一個号 戦 くやきしも あみにころる 万葉御報乃梓号とうち

龍〇かたま 神代孝下為汝計之乃作無目龍之 うむいとゆうてえず つら、ファラミははるはらのあり人くつもてきるか

のめさま 奥流がえめるしいはせみわらうなれかりる きるであるでだりきるおけりしょ

のたまうつか、契冲は記むるとこれがこう十二王殿的ある 〇いきみ 神中おいしこい番とるう、全着雑貨の大い 「うろうしとうさかんことうるていきるゆきうてはる根ぞう

んとつっていれなくっ

てないろこうかまくのかといかなく彼のそろかりある たまさつる

現れがざらぐさ るみと うるないううなんれるとなかろうや国は自外 いなるいなのるのかいとととないていかるかで

けなうとかて見るとうとうくぎなかちってるみからてよ つみるいまいるは海がる。役ななのは明かりはない眼不とり おもからうたろしろやうしいたったさくをや

〇天子子子和名動云 現項科 みづくきられてきつくさなからってかりをもくせってろし かっているそろねとやこさく

〇ふるて 和名鈔云古文作笔布美 今後るかてとい ふそれ中略

同書云水流器數利加米

墨がみけるとかめ

巴下書名

枕草纸

續世继 宇治大納言物語

竹取物語

新将万葉 類字名所和歌

はあれてとも了

专後われ

栄花物語

小兴徒

いくやれわれはなるとう

大名言

養な万紫

倪目抄 卖泅犯

それはくられあすくるろしくけくるといますん

古今集奏次異名

第一ふるとしはき 第三るかっこのよう

第五られのそ

第九をろろうけれ 第七きれるみよう

第十 あやめのまで

第十三 第十五 施力をの考 れるいねはそ

> 第二 なつれみも

第四 第六 かきろれのも る私心の先

第八 うそきない

第十 うろいるのも あるるのぞ

第七、 第二 第七四 行うつこはま かろ川の事

さしるこのだ。第十三なるいなまで、十八九なり、すないに もこのこいとろいてる スほかおいるようしまうのようは美えといれと た成等にころてう。き憲は松おりる数らはむなな 松事みずしなり、但ほねおしい、第三れなとはそ、第七 ゆうるはき うきらいのも 第二部意改考 第六 えるりのぞ

後拾遺集小鰺集とる事守園基小りをいてらいて投動撰異名 金葉集 野突主とるをせましてるろうやさいのとさま 老みんかからてきるくろうしみえなかり

新後撰集 積拾遺集 発記なとりかとのちまくろうなこ 新教撰集をは川まとう、武士のするくろうあし をおこち かってきるつれをそうをあせるのあうはというよかり なみながらえてう きななのとらう 七月 むますのかというかるきからしてい るようせるのであるとうからのでかけるとうる いっかうんろうちょうとうさきまといくかろしれる は守まという行気の飲みまくろうあと

衣持のみぞかけ 和名抄之、衣架字与作機部等空的念珠 かもひのを

のいう 数もまることからのいったかれるるもろかられる やしゃて人のかろうむ、我はきいっとうとうけっているも めかくろものしま でしていわるとみぞかけるないなってとる

毛氈

〇か七 和名鈔云氈毛席燃毛為席也和名如毛本 とようろ く修毛氈み音を用るものなろう

磐つうつせる 勢いわなりをるほれあるかんでうせ えとうできまってはなるよう、気はまる。没はしけ うきあるちのなからちにならのはうべるを、強すの人中

おうひまっと 本朝文粹雄知在腰拔則秋霜三尺 よううてもなりるもあうろうではちと いからういつきからし

琵琶

まのおうなさりをいし、後れ中的でわけるかってるととう しよったを 善きまますつけをよれをかなをまっていきま のなっぱいつき シーションの法ならくようとて思いて ずけともきろくしなりととととった後とうからをななくし たるできるできるとといっていまなられどのあるとことを 5光了一和名欽琵琶满月半月者在腹之孔名也这

倭琴

のむつけを ちれいいけんのようめっとうとてきいいけんひとを とめるり被やるれたら、和名動似等而短小有六线

等にきるざいもとなむしのねいでのおとは式でなる をでのきれるという。子教まる上五つたよけりなるをなるとい アイラんからればうそうのたとてよっているうてんといなくはう 奏会學好為多子在多力北觀聽道之水經海第三十 とんできているはかなでしまることとうとでのまけるみかけるける あるちの独という 二、此水,一注曰:一一一一縣故答陶国也夏禹封 くう後成ったいそうでもとなおされているまとくをはまし、は てや人のかつけん式人を接はちまるとうなられていなるをすって

Many Breeze 其少子奉其祀今縣都陂中大家民傳写公琴者 卑的家也姓人謂家為葵矣をありらちななる

笛のようでう野っまる出るようてうと八横笛なくときない 盃〇うく七 景行纪之昔筑紫俗号盡回浮羽 の強められるうようでうめとよしというをなう

松のうきくれぬをういくろうのうなをきてつくうさる 〇ちすみる ほれるなるとくくうともろんでうなるのう てきれゆうんけらくうますであてきに海からにあるを 子数盃色的级管面を好るを如してとうと せえらてもちょうのものいりまれできにはあり

長

あた 花山 ちのはなかってあるえあっくなっているの 人君なればあるらてぬる好を送るとうにき命う 松花 花上了了个的人和名到云情和名中水中浮水也之。 むるろうらうより、するいはがちとく 造出するれるころいたはあとえているときそろうれたうる 前的ある事勿強しでしたなに布的的を多数五、多 内がいなの間大井川るですってるるはと下るとえて、彼園の

いていかけかねるちはのはなまでくるむなりとい るるうううたとし

施のたいた 和名到云、正、松木也、字亦作的院、张尾也

のたちている所多般器構造為問生属也分等物物 事くというころれそと様といるのいうへんといいしと と今間櫓なり、多ままる二根ものきというで格の かる多うしるとすると今間様なり、後世タイレお古えると しからうるう~同書は一個私名力子使為捷疾也は

選をそのおれ 言奏年にし

燈 九つの枝 明が該別九枝燈盡唯期境之江次第 方數調之九枝燈之 校の言 八云立黑漆燈墨九本作件机四方四角中央加

金のやきつまるがかれれるかまをやりはといっとは、大常を

うをまりえる

المحادث

なのたらまで、有明紀云故は複製を指写棒同でるのとらららいらるがららないとなるがららまならりとかららりとなるのはなのとっているまなられるとりとりとりとりなるのはなめ干

ろうびゅうからうまれる 動き籍域と 南の谷子のたって 日長まらしているもられらららりこうにちらぬける は因ろうありしまいない は因ろうのしまれるでいる は因ろうあり 古事記 作者 紫垣 打成而ら 制業を

推 拉 to the M To the mount of the come the come

たのたいらはかる同意大竹量也が根とらろうがあるとうないるとの書を、竹量也が地でいるところがあるとうなからくちろうく

○あらります、和名動裏、魚肉、也らうらんだとう納のあどが

が幸かいからわられてきれてきらいからく

足代するるろ本川の方は はらるいろ、苦る男代のるし、和名欽造作具立、精 〇あな、い からかんとあないとあるともないいて 柱麻柱と並出す一播柱八今四調ツハリ

きかけるこうきるえか回し、単文な思えかり きるううではを流蔵が業かというままるもれたと ながるいかすみたけのと いよのるかんかってかっと るとゆいぐさしてるあるまのお此とはいちくるでゆ うなっくないためらから時間

つかきであるますとうけは気をもしていなりくうつの たはきひして好しのようしき調酒清者為聖八濁者為 えるにはいるもちであのろううろそんろうかなくべう つる動物かんなてわるのできたむかんとさいまるとはないとう 賢人之~

こみも 仙気おる、きなの称はよういろいこのうきてれなる 名かろし、和名鈔云、日本紀私記云神酒私語云 をみめらそりよりき他しみわとりの神るるかきる するとうなるそうなもった彼川はれをとうて、ける とでる古作國神個川砂水をそて為大神酸酒た のみわとつろうかうというずるとくさはうとはつころや

〇かつなき その素件をのするるにたかよるとかるるを 氣茶とる人特律國招祭改在といるかを方と場府よ きませんれて、されな利きとて出るるこという、まるれ さなむ 次第日。今夜盖拍到近彼地利所造世槽也艺了一中的和 明られるはるとものはみ中のたるかっとかっとそろか やなむとてお客を含うかういいおきこいるとのかなうと江 了かり、千種点、内裏海佛名の中後傷点のとはるを致

都Oふくまもの 和名鈔的野王紫·凡非穀而食調了 おとよえられるは鏡れといるそのこといろうら 青和名佐加奈一云布久之毛乃万多季,是小人之

のでかられるとうなるははおとそしなるのでは 的あちかろうようと

第つあるせれるるるけわらてちのそがちるかった、 のなるを小葉こという そろういたがるあるとがきるとしまったときいうちあ

鲤煎汁

級衣秘卷 のかつをいろで 源順云木朝式云堅魚煎汁な品利 いろくころもをおかる言き、物のそっちによ ちでめころも計してきなくなられなりめれとう でるでわかって多くなかろうして

级

そのなられいてのおってかくまうしみ中しると のさいで 物をはらうしていきあらるあけるい を見けること、其外は投棄家を地はからてたいう

著情臭露河相撲 これふこだ る十二色心所着歌るせくったっといる

今年見るわりくなまいるはなれることとならのかられ

からいちゃはなりいる

そづむき 説文無水蟲也られるろはうしめの彼 るからゆしてルヤーかっときるころともるべれてさるない みさこなくさく

さいきあかることととたのさないとくむつきん ろっというしきいといちいまれることを かしねかそくてとよしろうしつはえたのさといると

以防た之、晏子春秋憩上第一点晏子曰不可河 かろさるでかからけありとえたちょうかのたるとこと 伯以水為國以無難為民之一散本第二至多姓為

せでもの日本化館廣館挟とかっきまかようる きやかろう

とと

のあさち ままましいろうるさこのそに方けやとうろい 〇出る 古事記魚の一言、ナと前を為馬遊取論あり なくそんというとうらか国ゆはう上えらか いさことは多まっつさるとはかっていとまり そうれてるとくをそうりまいかろうつやるとはせぞわ いってあるちのかを残るしまり、いちい後れおしたなかか くろうちめるとといいのあるとうとかさのうろうでして しるともちいうあのあるからしれるあり も大将るようあるとうくくちろいふかるとかろうれしゃ るけっとうに赤のへいる力けりたりて、色ははていかくる 験とうであって列まっかん

老二万年」ころいてるかとせてよっさからうきてる なう我なるたけそうも、とつであをいるれまりらいいさる

解O>となった恭犯、在語思、舍者鎮也惟者魚也之~· いっなのほなく

りつはらの 本事根係を放出社教とて無を筑地了了ちる 鯛のあかめ神代紀下日海神乃集大小之為過尚之 魚日不」知唯赤女赤女朝台~ 一万なるい男鱼としちつ を勃うない。そは聖武天室天平十五十五月だ字可ら 景的天皇の声言、筑路の固字古都长候了了。好人名

ちんないないならりかわれてき とるるいいなうといるたとい話とり あしき字鏡和名物

きのむなぎ カナなるやせるうしているのは奈岐らうめ 也言契冲之口在頭下"鳃當在胸胸器手言了な そら多了。原順云文字集略云、銃頭口在頭下者

さというを心勢なるー

鯔のなよさ 和名動日をれれなりとから土坊口でよる しているかしらさし、 日田田

〇人ちめ神代紀下,口一女自旨出動以奉悉口一女即

館也立し

郷。つつなき このきろとなし古名かり、孝徳紀とは屋郷とる

そうちょんなりるとうるときるはきるはちる すら焼たっろのくろなたなしやくらんは氏は心を云む 終等的言其了人口也例を下野で言的的 ふくさうしというなう 人なるあり万葉十七まらかりをはとるかを後る。路 一い色し、を色ふろけるえゆるわりくぞれるかりした

記念

行後

〇己つを漢語妙る。古都乎本朝式用、乞魚二字東 雅之品字後此一名無游也了的園書日魚游好鍋 く一舜小朱子其物をえる。娼なうといいしるい古 の釣魚今れでナカツラなくの物かつりには俗もめ

音骨」ちって対きなーなくし、カツラハコツラはない ナともをはまなるといっと

部陽魚

〇己め 和名動文語陽鱼菜味甘貌似電魚甲、口在 腹下者也多好名中今仍工とというそのそしてと いたのもなりる遊尾というでといいしとえていう

〇てでを 〇よろづ 和名動云和名波利子口長四寸如 いつうざらいナヨりい多はなり、ヨログといいしとこはあいる 神武天皇からよ、蘇サヨりとつる事を野は較多集 針故い名也言東雅る即今サヨりといるのをなり。

鮪のあび日本紀真鳥大臣男難とつくろうるら前 一一ヨロツハ萬かうる・ 動と海土れるとくろうう

黄顔魚 今日立 いれるからとしいうと後はアミヤラといよだら のかざう 寺島氏本草綱目を引く、黄穀鱼はなみ用か お名鈔網からかる動態酸村父鱼等。同れるして土地和名鈔網からかうとうり通言下略してはらいま が。伊夏駿河上紀下紀陸奥等。國しってかじかといる ろふるうろうできってゴリといい。近江りてイン ブン、大なりてイレモチ、就本りてカクフツれかりてトン 37. 女大日形類小鲶而微小腹下黄白背上青

明之吟歌人詠之言、本綱羣游作聲為東 いう或る無好きっているいろなるはなといとい 黑带黄腮下有二横骨两鬚極獨奉游作聲如斯 くとこうしかしつるまるむかう 了るなはははいいるなんのあれるなととはされてい ーかざっかみなずゆきててせさいるいたの山あるろ

知魚かある 告島氏本草側頭で及る鬼類あれる以生

のうるでこれ名物とという。と何なアミザといったぐ いなるし

海、鼠

へこ なるとしてき数はるな数ヤーなるくご前の海 弘 二月本紀原島茂臣男輔之心之之為了,

鰒のいそかび、契冲はるあるのを方なないそういとよ 之時諸魚皆仕奉白之中海鼠不自去 鼠站三百城コという。古事记る天神神子仕奉耶 そうそれなりしき

○あるやたま あらやまい級はをいかうろして野事 第七、伊勢は海あすのたまのうるかとうてろう 色れたとうも、けるをちれるでありはまでとくのあるう なり、山のますくびえれたあるやとり見けかるやとん なるとはきうことうとであるやといるななる事的らう するたえをなそのちれを沈をはいたうなれ

さきなかうにおきってあるのか大きとうからりならりなって まってるくあるしたる事をそうとも放はの侵害 をろやというなとうろやせの人はかとかくかやきなく る河で成めのいそくでとをあるいってい是人方でよると 次之意識以好珠為真也以或人立的心心 をなるとと了~一、少大日本朝以腹珠為上、蛤蜊 さもあきおきえはいれを行う一級はなうといろんとい 名的であるやとかをは見る事かし、おたないろう 歎をうなりてしめとう!! かいるのこれよいしかく! う事はいろれあり、たってく気けとめるやかというでき らめ、河南鎮是真珠なりというでスアハ鳴呼と

〇きさ ををきさというで、玄雅る、け見かり刻めかと 財場なべーという ころうくであり、園俗九地の理あるときさといい、こ うむき 景行紀五十三年秋八月,自給為贈進之 ことりる上味なるー え今俗的うときまりるがムキョというとうむる うきほう理る無ある地名都将もあいはうます。

きれてなうときがうるいかられの特流し 寄居子 〇かうる 恐順云和名加美奈俗借用蟹數二字言 方よれるかうない。ちいきれいへをころむらうかのと

嵩 さなかる 私の歌りまってもいらなりりの里れれる いはいる 海目は一番もるやはってるかららさによれら 三月をこる 老八角一个人震好多温了之一。後次 に決しかるれ異名という。対きの下るスター さてなるとろれえるー らくるなくもいとう いめる る思へいめるさつ ゆかうな 高いきなね · 海南部如此京本路問題歌楼二

〇春のる ほ氏の著上きみをめてるというころう 〇百分多 松凌息多下報之建久二年四月叙位了 さいへかるでのかやという。おくてはれたりようとい らせいうっつくるめからたはのお客店でとれてきりま られてきてきていくれ いるるるといういけのようはくとといるころしてもはしま はよるれなうつうれしさらしくもいってきれるし のなからろし ぬんられいつうてることのまるまときるとっちらりつとろと そ言かできなるとうといろしであるし 名とするゆうてろろいとくろくとけってあり

うつちで「そうのらけうちょうなくなるとしろ すかねる「ちろれるるならってそうときゃくをやく 火のほとなりよる ますいろとおうとちは家私はあを万なるるでいき

いれとさるちちなるわる事かり、みをうたろうとな

するかのなとええる。明衡、大言家はようく後す 華色不審題点論語那重篇山器雌雄時我之 るであっろういはの月をやらしてをすがでとう!· 来了会可今或人所持来山祭味何以如之了一艺 めくていなるるやあく散するまゆうななるようのと 万祭るいかできずし他しらちょうとのといいいつうんいの くるとアンでは複称いてきることのうけそうさしてくう ははいようくいとくそろとというなまでろいないない うつそうというし かとうりきろれてはするうねなとている。雲的後

〇のつらで 卒草個目釋名野鶏とあっていかなう

えった、けつはのとし、経費にまたよるにようかるいな うてさのつとうかもいう それうのつとうきしいとうと下略となくろう古事に

白樹波和記律のその大百川から、天智紀、古六年夢野都献

いないる ふみちょうちょうろいきはかからわくのもろんじ くこらしていてきるななるでれるう 万なよっかしち山野りろしたらねなるときっとろしたま 一人公公子了引遍的人按了機口法之苦歸樂人子 物楽るなく。とそうはあるなである事かしちの

きてけたをさいかかがることけれをそうといきつめたる とうかううるところいあれのちとて、過時不熟とない てはちずのきしけらるう いつる異義的意思物情であまっているとという る数りでいろ

ちけちもいる うるねこれきまるでしてきるなとろろからうちた そとさいれるかくくするといるよいうちいれるとろ てもうけていきとうとあるかろとかくとんろといろうるひとれ るうろういれからのさらうれのいきるおりがらいですけらを説 るよけていひむしるしまし ろりぬいちはくれてというるは様にはる

いは

藤司

かるき き 味味にし

野なき

おきなる でくさくるのち得れ のたからある 〇まろちきのはる写はなのはえやある あるるできたはきい方家十九つつはくころうちゃうちある くってる一ろはおよくちてたろうんでかろくらう 組あるとうてなたるいかきろなくったいちょうつで

140000

つれずこうち のうたひを

らと吃なれるろうう

の之内をこる はかて後ごことをろうてでりまるから かると多とつかできふるするそしてしたからのこ されてもろうささとる時には

〇らんる雪 そ八和名致工鹽樓今之郭公也とあい るるなおかりまとうるは老のむくくしているかん うねのとしると、残るたのえとはし 言音をりいのそれに接にはよらんるいかとこともの名とは

○を当るは焼に決らくゆけるをきびとりむというさ

ひいうしてころはる 万数条第二つうくをくるる るといまる ある回し、苦はけるとろくさし

の付つる。他川水気で後れ、付けなかがねきねよとう まとて一力というともうなてはれのそうはねをきぬる えからくになかさてする おかかでちょきかのと きまつき 神武紀之摩途等利字介辟餓等茂之 ろなまなとみのうつうかっされてるとは しろとむうなてとやってもん以はくろくう そうちくそう。まするとの こてそのとやしょうたるれかして いくいろいれいいろうちからまちけるからきすつるる ださらやてきせんてもかをれる。すらうといれるとうとい

雁

二季を 美付的同一忠孝いつうなちでしてろこま

11/1

ならしるようないうろむ

あいえる

のいとら、万をもずたうなとはいくうらあれれたですって それ気がえいとういうつくしてとうとるろいなく

かしころころとがてかつらかしくるものなどうしねを からうなるとれる。本人のななくし べち 仁徳紀云、四十三年秋九月〇天皇台、酒君 俱知是今時主义大本至上一人といてきるりのをを できてからてからもえてからてのやうかん とうなといううとし 示為可是何為矣酒君對言。百百済俗号此為日

鶏のたまったる 日本紀よる人間好など、間みまてしとよ るくむ そを、山雁馬の成於、文下 書紀天後

ここのと 和名鈔鶴似魔而小者也实冲的云小似の こうかうこうできれている。 なくのもっとのかっちれてとうと れれのもろう

推· 調·

〇つ之 和名鈔云漢語鈔云須以美或云東云。如何言 ねつこのアかるる あるとうう数しむらけるとしてきんろうちき

草のあさか、世西国な多百つこれなしるいからるるるので 鳴きるいる かえいまよいそのためわらのまるかくとととまる すし、西でくるあるとによるまさしてますしてる。は ○さした。 集はちいくれをのかっていて、言るかできるころとう つえっさい 雀椒八雀鶏のななりという きないとひ さしておううさうちをなるろうしゃ おき行きいはそうういないらにしていまでなら そう「タリれれしう」とのいところなのたけいとやうる さくまます鏡小是風鳥波也とろういかかそろし 山の言るなるとのまのあというなるあるは、集の美名こ ちてきれらうまるるこうしまのにかれるからも

題のいきどのとようがふる 船にまりきるのろうでの のかきつき をなれたるだろをかしたくとうがすのる とうとうとうとうからてするとというかったい 大中文的幸せるがれてるかったかったり かもとうかりしかしをそかきのをすいりつしま まりからからいちのまねもとしなってならぬるちゃん であるというをうりしまった。 というという

千鳥心之人的人はそのなからる ゆふうけるゆうたるちゃんないとものみされてよ うるなるころうしからめるなはのいろうろういそうくと 力しまってかるり、

をつとう一万七、たつきかずのかきたのきょうなのなっこ せ、で境のなってからかけのきもの人とあるとるなると付て で方の関するすてあかしると

ころもおそのそかっち けってきのといれをかさいるもうけるやしていく

してくるとうできるしかりもとうからるる いあうのるできてしいおってあるん。せのはようであ なのちとうこうろうし、そうかといてもまくってうか でしかるからるとく ぬしあうっぱーかり一きいいる必数をできのなきでい いななるというでうかまるいっすりであいるかる

くだらけらしていあかりえ真なよろうなる人は ゆつけるも初去るまち合とううことんといろこ もできるちろうかはらろうの名しからっと とてよ好多神代奏逐聚常世長鳴馬之一的今天 けられるころのできいなかあっちょ ふっともであくかるからくるんでんかり いでしかくのまるのとるまでしたん そろしてきる! 教養でもつまのおうかうなと かきがいつかあるれいそれもはらいちつはからんと をついれのいまもってきるくるるんとはいというを数の しらせかっとうれるしろうとは人のなくというか

三かせた

大きとさるところしちいのちみきでけているいちっち きく、本網時珍日南、越一種長鳴難一まあるでを

きるるる さってる そうみえんくし、予らおえ

いないなるの事のそうかう

一書る、影を治广変るくハトヨるといか、山崎の関な ていうしかくなというという

加良酒等伊布於保守蕪等利能去等乎美事事物はをそを日本霊異記悉中一行基大德詠歌日 月はいうかとはなくまてかはそそろういろれなくと 万十四つであいるそるからえて、故事あるですでなっ

るもする 花子四ー「はるまたとなるろやむろうらの おお下をうくるもちろう

鳥きないる ぼ養父もるいをからくらいそのなろでう るるうととときまるるたちてえるうとろ いは言うれるとなく るでをえる

○よっとる をあれれるまっとうといたくろうたろと のもうそうくいいるといるをありまでうのう でるかろしる なっていいからていてもううをはかくかってやそうも

鳩

ななっつ

二方なる そろくりきるるもとところうのい

みなえさもも

動物の電質鳥 景行記る之の 〇二さらる。契件师说方第日水長者ときはいけるい Oをとて 多冲的えぞくりいること、州島の万十一大は 乃あり強みをう物なしたまくはしまれるこのぞうれ

いかかりせる。ちれおるいなかりせくういたです

そは、沙中かるあ かでを放いなからをされる」へそれ人、あるこというと

2きかりきまままきるのしからからく のなっとなさっかっき事れくなるーへそ

のつ、まなる一ら 古事記略歌云麻那婆志良表明のうさを一つる 日本紀私記日止豆岐万奈比のいるるはを

由战阿閉立、字鏡上,鴻求為及豆、万奈柱也之

つふちくなふで 和名動訓

いめむる名「私のよれらかくうそあからなけるのかよ 古事品與我云為那麼為奏會

るめらさるとろく・

よみつるとそのなとそんだなるときできる。強め してと行うをするがあるいかれていて、真はなる ことらそうがい助き、拾於動之邁鳴時、歌ヨ三产島我力 なというとうとうとうとうなりのが、万里は満年と るはお見けはをいるはあるという。お見はいれるの

キモトニ鳴シナリ人でテキ、ツコクタでモアラン

をかっても、うつまちみあるけてくとさゆをしている さらしいいまかせる

ひさけ 集辨色 立成云佐介

〇いひとよ 皇極紀云三年三月休留産子於豊浦 ヨハ泉は異名なうという 大臣大津完倉之天武紀頁台茅題為釋了一十

かほよる。をはきえきかくろうけをきなさかのえと 少好長聽流離集異名也是是小子的方人一

かほよるをはよる世俗ようなといるとしているにの おそいなくのかはくるかずえらばそれいなっれるううな ことナ通りて、後ろかるいっからくし ようなとつかるといますにあるけるがそくという。ない

こそる古事にあるそうなあをさるるしとよるう 〇そい 和名動為都名感回の俗キョモリとうです一多致 よでていう

事人為 三三百二十八百十八日 我是我是我 かなる「かろうそのるでいからうならしまってはをわっ うからいようる。ほるえんいるとういうとよけるとうで

やきっとつから、一書きける砂かるかろうてる対 とろくるかも気とうないろ うむないないのすねをしてうとよくしといでやそう らんもちくういれて考えるいれをうといといると をあまるえんいなというとうととして、時得難のたから いまとうをのえんむなるとつくまいういちなるいナハ ふのるととうなろうのくろうてよかるといるえるよういわうさ 助すりていたろうなわかくとはきよっちとくそでれいてうか

態のいからがをはるようのはくしいればしまなまです いうはってけめりましというれるこそのちううさととに る二次からえるいかとうななんでのもくるっとて

態。

鸍のたうべ 和名敏云似鴨小背上有文引或本人 Oたくこち 東雅之巧婦、鸚鵡かんを果をいる事が 〇あきは 万然というそうかるわるけのかくかんそのり 人いははあるはられていてとかきあるをしたとう 八温って、お名物はひるをれをうけしてき暑 のえるよろうれているあるたけるのをなる いたのれ、背はを始見まという、おるまましてののは からないなあり、美名がよび婦与名道虚しいい のははいろなゆめ、見牛き、佐くあいことうできるい

紅 鹤*

のたふ 大京三いる言語をいちいなくともゆらったっ 〇つき源順云漢語鈔云紅鶴為用題等日本紀私記云 恋花鳥ら恋えちい安寧 犯しえの 心島社会をあれるで、ラテウとつようう

乃さかきてきている まくしとるととくのくないからそしょういろうかられ うとはまってきてきる前でもいわらうれいてかっ

事のかたかうなき、古語格遺令片型点,松乳的 のみことで れるようえる了天武紀真白巫鳥之巫 をカンナキといい、我いこっとていってごっトリとうですろし くかくかっきけらやいからますとけんかとよくないつうるろう

方目

〇かをめとで 本草綱目云方目一名為一名澤虞 ういなく、そうでとする けっちかとはからけのおきむるといきぬうとめをあす して呼してる山田はいまるえ川ついくうちあるのは 俗名護田鳥之源順云護田馬和名オスメトリラ 雅一云。為いろにいとうなかり、かとい為の漢音轉

為〇人、ひ日本紀并和名鈔鵠久正と例を垂仁紀巻 くしきてものかいろしゅうろう东北き勘印を修 白見な言言がしてハクテウとついもかしまく 津別命年はらかるよくものといるとも、場の前をえて

智慧

病 号!

〇みしさい崔禹錫食經云驚有一種相似而小色 着黑有水湖門灣美出佐木散本年品之多多人 なたではあをされのことでとっていてまたいろう

開門

熟つかやくこれ名鈔云作場小鳥也を人本人為一年 するうちったんかやくそい草潜れ 宣事なかやそさみとくとためむれたありしるまとい のにほ できる不及わまとよろす事には、美保という

設原雀

〇たくこる 童名於注云巧婦美山里 好割管皮食

鳥腹羽のそうきそからってからまのまかっ 中遇る散本まるたくとをひそ、ボルなわくる

〇まはろえ 景行紀歌云。夜摩苔波區珥能摩保羅 爱私記日島乃和

るいなることといるきのみこのかるようにつうなくて独りか そかはいきはおよれるしをからとりでというというたる 古えて、今後は契冲はるつれ、独はそれをかるとうと も回十つきゃれてそかるなはかのとしらあり、そかるい場 △獸

それかっといれとうちはなからしまるれていきか あとろいうれなるるではら残るてとことからかかする 第一方ではのおし、雄器紀云変命, 明三願云須我屋、、たとな るやさってんゆきかよくのなるなんていいちょうれいう なをて来をももかっていてとろうへ えるのとくるまって人のなとうといれるこういかのと あしてシッましてちはらちろし、むれい日本のである 七りく、わの美名ニッうわっちゃのるとというまううと むきてあるをあるかいしてしたはるときたで 不考をととはいは没きつれていないのかまるとこ りれとしてるとうろうころからてゆのれなるまして

かせき、最行記白展ときかせきとようかまいいろう 去はまつ初るとうまできなおくとえてきいかせきは近くたでき こからいかできなけらうれるもうとさいうけってきらう

さなっとで、得法からればあたいるはこう以もかららう はらいるちあの異名ことうこれようです をいか「私とは考しなとれずくてもあるとれなりとくうら あくのせろが水がりゅうといろれてうらない いっとうでは役かるかつしまかっとうのうがかなられ いつをあるかすかる

猪

せれらんまい、作うい人偏様はないるるの

第〇ふるき 和名動黑彩流本 は氏まねたようとこれらる うないとうううかううけしる一枚をまるうっさけからさぬ おさくすいわいろうゆるてわさくまでぬよういわらったし そうえかれるとなくなってるとと、江次第二重明 親王著黒彩表八重事る いきくはのうろうふきてかく・

〇よめおこ 変れでまるだとのるをみもいなりをとれ きるはいかいころとのいまちてをならしてわれるとう くいくうとってているためこととのなりととくいけらいつ みえいこくまるからうちの とろしからんとやろうさ

我は、そうようと、なならろってして、なり、なって、なって、なっまっち、かっまっと、かっまって、かっし、なりない。

よいは、これならかくのあるるとをないまとれるでとのといるのなるよろとは、よるようとは、ようといいいとしてもくせれると、はまないないないないないないないないないののない。それないないないのの

まる、行うないできているのは、いろりは、しいるはいなるは、いろりのなるに、といろいろはなら、そのいろはたちそんといったらなる、ないろはなるはなる、ないなるなる人ます、ないなっちな

そかれのむきのはろきかりきろうなりしょ

新

1747

おうるおあるのとうくとうんきるとくむいてい どくんととはのうちになってきのなり、いちきりりゃ 人志い格へというなは日は、ぬとくとというとうとうない という、同一考と及る後と推めかそうめのというさつよ くやのうちくくとはなっちのような様はなり、それら

うろしているというから

まられたるるからとなってあるるのかいかってん るのろうみまとたく

いったらめは海村を力如私かり、計客家不如是 りでし、新株樂では野干板之伊俊寺女男祭りる 私事也一該伊賀伊势國了的板を行うめ山花と

柳のをを 英名死機和名ものけいをそれらされのかのと いかろうれるというはらんでくいろいろうとというさん きけるなきをきなくなるころがあそれらてきく 〇きつ 教もましきつけれなくなまてて了人なさらりと それるできしてはらうちなととうくときそのかられ とつつしとと なってまれてのとるろうろうれ、ないないはいなけれての

海驢か

のみちっまる、海驢アンカとからそれちしん、私名動 了華鹿とろう寺島氏会海鹿好服每島上野 時できませてる名べはいのれなっとさめかられゆう

できられて海雪いアンカラや、はしたののお料者光信 神代紀下衛設海鹽皮い重されたろうか いうるからなるやそでなん、けちょうる氏の後ろん

虚学

Oかまき、皇極紀童謠云·阿波此不不古佐屢是

がおけるするところはないとのできない。はなるので

犬きいうみきいつ 鳥のうからうき 言をまりたゆ がゆき き大多いきとかりとないをはは後を、あるよ 一郎た あつろかを称ると名付しおかろこうきいよ ときろうっちんちそきは人ろうとまゆみあゆると きたのおったらいおくれがえなりない思えらいあるの すくしないとしるとうとうれやいせー 十名之垂仁紀丹波國典田村有人名田義設 きべをあゆさとしてんいろういあゆき、大くろうを 三十家有大名可是往一陸機之大名,黄耳如

の些砂にちゅ 四ー

实有的

△虫虫

松つむき、もろいの年紀の例かり。既は他部私律的 あさつて一万なる。おつては他ふるはとうめ、時代ないる ああるいろ こととんはるいるから、表文といると うろいるんそうというな人もといれ名動之胡教晴岭 之小而黄也品為又赤草蜻蛉小而赤也品名

〇かけろふ 和名鈔精岭一名胡繁和名力 了。今一万間ヤニ、ハエンバの特代から!

幾率

1800

ちやまろ つくててせかれるようでとなるととといる

れもうとはずはなかまろしからあられる ち、ろむき、ちろむしたはれやらむかしまさい きせ 道をはるままをとくるですかしとう ふてっむしあるさいのにしてかられいろうちつち といよわらなうり

きけける 「ちゃのそっとれらるいかやまやっれろき れるとしくいうらかにころの 事のふそう、詩歌風云、六月彩鷄振羽をふうろう

テル

0ちろとままけば旅店養、原仲ようちょうる れいあっとうれているかられちょうというよう

をするからとうないらん川みをよるながられているというというと ちろと苦け果ななろう

のたときはち 名言は中勢でかるいろうときろろろと あい力とうろう

かるなとところいっと、たちもないろうという あやめる多で方面与子子内を日殿上报会了良建 のタやくなるもろむしみるそうのぞく ねるてきろうれいとうめてくであわめとる。女もろうろいろち はは、たろういのをのふうくなってからうりともできの

まねしたの

〇多、古語拾遺注大點謂之羽八多 Cをろち、和名鈔蛇和名倍美一云久知奈波日本 纪私記云,平日知

幸をがは、万多のであかるのなれてはまし 蝶〇かちひらこ 字鏡云蝶的波地 爽面和名的山前を のむちみたきさぬ るろうとむしないたらぬないある てあるとうらいでへの私人とまるまるろう、

ないないこうあるれころうまるまるはことうか 見けるほうねてもよのむしいとあるれなうからのう てかわのわしこれのいまるとて、それれのふかんだろう ぞうんざるまてよれっというかているとうももしんれの ころれだかかるてころとなるろしさころらそあろんよ おとうそうていれてうるかまっちょうととうる んなやのかもとうゆして好るたのむみのかしなると

まけてであるをましてれるいまいはの下ろのいう さいき 川維みれる、はしまちょうへんよう すららかそうさいをいしゃんとうい

のいぼむると 新猿樂記」、當眼舞之頭筋、怪中的 等題でかれるいはそうからつようかくろとうあためてという

つかてむき 和名動云一名鳥毛臨波無之好亦的言 からとしまで、新年動云 二名 ならくえゆるあるい あたくうるるまってころしまのかしていているとき

おのたってもあるといわれてあるれるかとかとうとうとう (土) 之 和名鈔云。衣為一名白魚 美格色色多了

〇ぬうたきむる 和名鈔文品之细微者嗣之東門 頭をおからかさる。ならけらむしてみもくれなり、さ らこからはそうとううつけるそをうしくれるし そろうるるかかろうらさもうろうむ、みこなかなぞく

野さ 漕ぎ

暖のとこよむさ、皇極紀云三年秋七月〇取常世襲 〇そくもむま 和名鈔云一名、結婚和為 置於清隆文字鏡燭些ちと河を

蜷坡

つまろむきる和名動云一名結焼品等及食養蟲也 こいはむとうである地方

野野, こかひむーうかく、要ある思るこれを表これるで 却不到大學來中小馬馬

ひをむき ほ氏後きならうそのいをむしならうそう 蜡蝶而大如指頭身狭而長有角黄黑色甲下有 状如益城一名慈母之,蚂蝣本调云一名渠客似 そいめとうるできまる、勢朝生養死蟲生水上 皇之唐韻云。朝生暮れ事地之。順ぬ一成らかくいうき はで、センチバチとらる。今接る、和名到云、ち、漢語抄云 たうつきをセンチ、チハ人かましくどう出て、あるとに強 人之子不息仍情了。事,读诗借的学,好事事,事知事 年という対引きる、納流し時報之とき寺高氏。

好的飛夏月兩後載生黃土中朝生夕死了一又日 以表了一種のはいあって、同名奏知れ、又語の是名れて 或日蜂一势水。最也以似《翻城、朝生》夕一死、文、之了多名八 多

坡

〇をきむき和名鈔云、說文云、雙城多子今按了、以最 鏡玄螻螂城也屈伸起表比万 行則我起背故云於收無之故乎の假名未詳字 前年 部本本の

蛤螫

全大是 是 是

のよなむさ 俗もゴクウザウなうよなむーかられむーと相角 和名動云蒙米中小黑一報也奈無之之合

猫

〇小でつい 同書云地膽波豆、文東雅云、俗斑猫」 了意方言一本草類編云班猫和名末女無之

蟒京蛇

〇中まかいも 通名死云蟒夜五加 〇たちひ 古事記下室襲部

いちはで 和名動云、一名伏異教保里去事生了 さいくろうにたってぬきるもっていっいうってられてかってる

うつみむさつ同書云水名豆寺岛氏蜚幅あっちしと

歩四十三正

を、左草類編去、蜚蟾安久大という、クとフ、タとラ記讀 具原氏あつむ い幅義しとき、でき

龜斯

馬萨 〇あまびこ 同書云一名百足内西蜈蚣と混らてる人 ねつきこ万ろ和名鈔之一名春泰和名以称章

とかかでわさるかくくみないきいからかってる ゆうへことろう とく、ちのるをかんちずめいうろる。けらいることろあ

門書班和

了。 其即 類 之 本 本 台泉等 男名分類 二 草 多巻之四 浦外 差 美 蘭朝極。對北藏 龍路 部 **颜**。百二合 目 録

村紫露"山村推進山土沙董之

普獎縣選养 菊 教教 夏 蒲 其 田文 E

胡沙松中树松 松 播 茵 樱木 胡

茶合。在1. 柏。門為主教柳枝。 起 数谷,松沙葉花。 市 本樹 置 置

等概讓楊槍桐郊養梅

松,蜀少石之烈+松春红柳。蜀沙冬至草珍椒药梅红子一贯

草部補遺生五八

夢

些大小麥、雁、萱儿、茶、角、小、乾海 夢、程、門、来、草、 高尾、豆、 草 菜工冬、紅

糖水或射·普·木声歌·葛葱大

軍暴名分類動

かやのひめ神代紀生草祖草野姫亦名野槌さ の好せっているとろうのものしむ をなり。日本紀竟宴歌」としてのきやるけった

Cまかやひめ 經密納代表子会愛蓮はられの中あり さいたつまる投か同一古人後るのかろうるる んをそれてうるうのれもあるかんろう うできいうたなとううえるであっかったまっているのか ろそつるまでがらりわっされるとうれ

岩菜

おけるる 養もるよいる代書ましまういつそうとない ったま 美信が同一一でまるさらしていくのれ となるいないもたむん やけむりむよけるるは個のきでひむねをうかろて

一番子る一つ一いなちをやるやくそをしたいなる

ちるやろのさか人もなり ためったけるとうう

るる からとうてくるときかなるあるしたろうちょうろう 2 720

二をまっけのちは秋のなるとうかないーラをうるもの

并根的多 を記る同一間ようはそれられるよう を用しまれておいるうつ 吸一 さら

あるい書回一後我都上と仲文と後書のきてかけちと つえかもくさいまるれるやがらはかいよくそにを き、万十ろうると国のはるろうけむとよろうと神の おれきるかうるくとちといいろわけんとんり いきくとうがはいまるいちくとかといれてあくとせうは ーるかんてわらいき いるが対域の名できな好臭名なろう

〇み、なる、花まることはある素がいらるうてさわるて 〇ござやら 人は七枝のまるようで事根は云るるまい 七極のおし、持ちろう許着がある、ころ佛のたしる。 はは死をきの没るねかろと、こ 一つちゃとれるなるようこのとれあまろしいるいき めらい内とはおわらなをいはるてきわさてれいろうち ともうしり、今後、年個高期の行名、佛丹高平さ なる。他一見な氏藝業というとき、必られてき、 再第こらわせは七種の内は取とさい風強しというは 和名欽養蘆子 本草類編馬先萬

Oふちる Oたる。和名到ら蒲公草フデナーラタナ のよころで 日重上人でまる」こるかだるは、の ことあるなるできるができる」っているなととし 事というするとるをみとのあいすりかってしてい いつにしているときかろろうのもくという。 ういるのうとうかっというが、契神神がれのまえと

かくそくさ

たくろいろさ、るけれのちけるかよゆしろからつ そういちのうちもとく

○さきもろけ かずおとうしもるかでいるもっとう 萬しきつしもまましるからしてまるるし 「あちされるやいできののけるしるいまれのるとらるかところ 一契うとんううろうできるしもとなっとうわいわられ

のたちれる 一書るとき

いったのきるちられけてもるときてものかしあくからり

白茅

つなのとそ 特徴がらってかとろうあたくろいさらかく るはからうそれれてくるとうれたうればちびりつ

まといろさ 夷憲深秘がる。こうるかてのいきかお うたかららはますこのかりときくちできまをるいる なくきるとあるのちからかけるとうるといまからるころ はあるまみ十そころがのうそいはほぼうはまから きているとうとうはして、彼をめてきるなぞく神 人多,且莫鳴等漢語抄日用神馬為字據之馬八 とうきとわきって、文でかとため、えず底吸のける。そとい 馬陰とうなれるやし にわり、といくていますることとともあれなりむうしつかや コハカるでいつ、低海重でる方の歌いきの日子も言 らきれきり、できさがきらというがのからい

とらえるうちとう一等のないなからるく一切りくせる いるとうときしませてきろうつかって

京なちう 明該整座旗蔵人拳手であり、花川るで して、となったいは、一人であるとうないのありてちるとけ むとうなのちうちはしいるのでしまではからいわらるに

いれるるとはあるしていれまれてらんのうろうとない きったけの変といってき とおしてからしなるも

四部子 私とまるむりの男女あったしてからきはなる カハろさ、おうるがあるのよろを一後なさる め面教事みなくろできたし後の名あなりむ うりの次生い出から、まいきるわけるととしいうく め名はうくれて 村浅る面がをきっからうつしては後を作る子はる

むらさんま「おってのからしたてきからいりまるの こまままりるよかとて、後もこままといかの、引き いろみてるさよ うからうとくとそろれっままれるのとなっかはるなりん

おえるようやかっきつあっましくとうなったっとう

の此のかたととる 心をおるなのつるかろうれいなく さけてできまかどろれてこのかととういるとうとお ないかんとう としたいのではくれてくろうなろうと るかううえるがあるとうできったけてのかるころなっと

まつるまっているとうというないのなるころの

らとこえろは まるれるもろうなのとというはられるとうない こぞくこうおきるとちょうちょうなでなてうかと きはしょう のもうはころいとうのかはころのままましますると

のふやで 後楽記る要がしてしたとう おかる。

のきふうろうでもってをしいるというかられるれ ふからくご和名鈔一名鹿並美なはままて るとてくて 美信物はし、形をまえるあるけんとと ら状れるなるできを動くなるに男化めるありとな して多うたとうといけるのかろうしもいってってっ るとなるのちるるるる かしいとうかととうしていてきてきてのことくまいけ

しならくる・受悪の深秘がるとうとうない牡丹のに

むつうらる 壮母詩花南葉落二十百产,沿在多 していいくうならるとろしはくうたのもとうてはなって おのうらろく くうできまったとうさしろうとういろうちょうちょういの というとうできてい

となっている。

むらかってろろるるきうかる をうるる 砂をまる用院あすっくとやろうてなっ

行行行 〇をつらきおする はをよくするなれのとかろから そつくさのたとりでき

連ちなはきまできるもろう

小好多多 按上海的古今注云美落一名荷花一 名水花云

は見るるるかまでしてからけるうでももんけんるは こからてまなからういつ

高はる ローなのさつるやろんなはるをられな うる風のおうて

りはるローをはとはるとうなるますうう

まさろろくさ えなられるのうかるかるいのもろそ うんけっちきたよい うめうなっといれまくしまることあるあるまるとう。 くてくってこわらのますしるいといけるよろうなからてせん

そろうつら そろうつといってあるいはをえるい いかけるは異名よくて考えいるないるないるとう 乃をそううとありよなれとなるのをあきしあるいころが まとえきいわらいのつえときくろうう てきれをゆうくんなるあるしるつく、仲尼日、蛇莊 うとぞろうつっていてはあきている大府東こい人 きつうまなりでいかるまとつるないる姿、変 子之智不如美な猶能衛其号とろていういかかかり 後るのんまりでえるときのうないちゃつこるももなら ぬわかいるいとうそろさきろ

あのわらいよいわしいなるのわらないれる砂社倒れるう

極そ うなすっちょうれているるよというししてきてる はりれいをいうけらくいっとあまっているような ようしき数不知社後鬼姿としいるこうらくるのめ いてもとするのできるというという のかけれらいれるとうにとないくらんっきいこめんと をいうにせんそい変とすゆるなられるそうちるるの まるますかのうなりはれてむらそのうしれんかっきっ 好もかうという人は書り鬼姿をおろくというかつるの うきているするとつかれるそんのはずりやれるし

二なるか かきまっろきまるままいかりろろのころれのからし

版

まなっさよかるて行やきのすむ

える

取える たの王のうでをぬてるもがあためうちられるる 但時期一家一公 うれるるとと同をいるよう くりしているいるいとならはうてそのかとさるら かるあるいないなわってでない風事なって記るを うちものいをとらるかとうとうであるいとからてとうと ではなんでも、これでは、これでは、

機子

はよらもくさ

ろ竹 本網瞿麥、释名、石竹とあり、万多うて名竹と るでいてしているからまるまりるのけのたとしい

の死をういくうい我の他的してして、まるまとうのな ~~をつろうてなるっては犯しておあるなけるころう してしてときかかううろてんまとうと なのうきるようちゃくろれるそろろるられなるつうな お他のくろうちの かたみくさ きはおらば大れ国よ人はるのかそし してめたほとろうなき人の多りよけのくとかてきよ

とこるつなおおる聖妻をなてしるとうちなると 語がるるのれというと、おるといけれる教をとはし とうないといういくろし、はるなを見るのはとりな母

そとある! 万ならことのせるをようぞろにまするりょうろうとう からあったるとてするといったるといるのではし、

登陽草

つまたふでると言をまるため にいられえ 与他あるさんひうそろうたーまとる ねのたけるいといういとう

いかできるるでは、とうできているとうという 〇とそろと字鏡玄漢安却又云江先云、異同考

からよさる。死から一つるるのかはさかりとからと お他すてとかくろれらからいうついからえといいてとると なしなけいいろかってるとよろう いかけらくなるとうでとうでうこうであまいいきでした

吹きる 吹疑の音を次のきてものあるくふくさると いろう大のやかおれるとるさるかんくしょけるかっと やえて

といれるようなからもく対数を大面水中である。十月

白える「なりしないの後みらえるれのかられわと そんむるでもしたるなははなくそやってなつとさもうと

と回くすりういっちれるかつとのらると、帖よらうて がよくとる あるるー」をあのかはでは、 かようつえをむせり、ころうからつるといろと北しる。今梅 強うつえ かつえとる は因るわらかつこといろもな よやれふしは そからとなることのはこれに 他しといろれなんまでうつというからでとのそといってるも よいはよずなかるあくが出さりるな神もあくい方し そいうもなりでといてきってきるとかはるられなことの いたうつえといるとのれをりますっち人の没多くうつ そうなう他本であ えてされて、方法はよってついくがの異えとからできし

ろしまだ うそのとれのふしまなるといっとからからるは いた方はるを中でしていけるもはないいではして

える「るながをからうるかりてたられらろくやすが百合 るれいかられること

理草名号,佐幸川也山由理草本名云,佐草也佐幸川,由,者於其川邊山由理草多在战取山山 山丹をいけの文化とるのりなるほとなるとこ 〇きね山丹な古好名きねとる。古事記神日、其川間

我は草「水のるて秋れるのよる「しむらはいるろうるち

でんろう

かうるる でくうきー我ののある我なーあっける そからはないる

夕顔をかきる きいけのえて「麦の日とおたくるぬらられる」といけ のれみやくなっとう

タかける。香牛なるタかけるけるぶつっけっちん 但るなするいなうしいちともあかいくさくといくタかける

~るで自接かでのタそえるか~~!的な」をアサカホ きがも、回名異物れ名的とれたいう的強烈,物 タンはさいなというするこうのそい様れないない れるうとは事となるのとアサカかといいく、そのアサカあ するうろんをからずるといるを中もの

めいるろさ、ゆういろでしけなるわらの残る 後まるお物すくようなうとできるは後子よう うてかってんろればあれるのを接るのとうかというして かるころに何てるることうときのろくているからと そこのそれなける後まるなくりは教そっさつ、接き

日教とて後をはれれるからであるこうかうそ できくさ 仏気がうるかるいあることろののない おをひる 面具で没 んままのちょうさる一般けれているはゆしてあると 戦中いれるるくであるいは人のはいるそんらやわり えうけってしいまはおをはるようなるとかて、か 今後とるなまり、おうちょうとというりまかられた るって見るとというしてあるまれる物あるようとい ですいはぬるつきるのいととうれもかれるないとう 一利子を持たれるのが対するではは

河林様子之のあるといわるかり、いるのもたでなる 羊鴨以草れ名的鸭頭子力多い住言なくうのか 「教子」が多了、母子会男佐とあり、仙受ま勘さ するおきいうて、は世生なるよめるをかゆきした かう万をえるできるかってくるなかった多夕 いけばらつきるのととう いるわりとりあるいまなりそうるいまというの。本 めったる命とるとろいるのとってきつときなれてき

るなたらさい時日よる秋を多ってそろのくからる いろるあまれることのとかまった

だえる

きつきのれ

こうる~る 和名鈔用鹿鳴草,字和名之故なけ かえる。 えありはつしいをえなりますっかるよとありるとも るいなってなってるとかるまってれからきれ

できるはっていさいかのるとなるるまからしいいねと

あってはるかれることできる

かえる たかま回してかってきるもるとつと まうのかけるのうれているよう

たえるいいとうともいうないなってかられるまますいち

古极多一家本的的意义是由了在数季了了人人 えいるだかう

私きる一はなかりぬかり

さいちで 神中からきいきのをかをかるとうないてな

なりずらまできてきているれるいわしてはなってしてる 代通記は書。行うえる

おもひくさ、美性が同一治らなるとう、なのと

ふちはつか、気般的を演書る成本みでといてい まとりよういまえせくいまでしょうう大智文 しろうるがなるでろうなを見てける子中 勿海しなはなるは四ははいくえうとうと らうせいいうそとは込みも るがなさるしてれてはしているとうにとといい やうながかうとなといるとうはお教会は言るとき 皇華花異名るいるという。又世紀とる不かい他し

Cあらいざ 允恭紀式歷乞户母其蘭一些とき 八年一年八日子の おるはたこま飯いるがよのきころとい例のるとと

あるとうてのえかうまい他かあをえくしく うちょうれるのまてるよりるなくろうをいっていろう えいおの管事えというは一管事はえいわけ

〇の一和名動

○ことなるる 童中おるはふれを対りををしてしま 掘ったまてからもできるとうなんをこれらいまかし まけついやかっとうち そ。諸悪無事るなくて事かしるとえばろしる

秋れる「展え」てれまるるは思られたのたをでろ

が生

せつきにするとかい

のよる を作るローショれのとてまないかろしる お吹きるが着みさいてき

見おる そーはまでしてもろうちょかとうをいする きにいおまてきているすめ

きとこる「うそうれちくならはるよろるははほうの

うるなるさるやり

ねさめる をはないしてなといているるとうとな 党を同やるちの国とからして

同きるの一音はきみなされなってきれるがらい きあむとくろいろうらう

薄をあるる。要はか同しるのはなりかしるころろろか 行かららまれるとうわくてぬるれれなかりとい 久える ゆうま 三人をはにー 了しとそれでなを必れ

放はる「水ハケーね」そいてはい~ まはまりまて いたとはうはやちょう

2たきま みくさ 他気がるかるといるとう真単は我子で神はる そいたれかりとう くととりつーうであいあさつ事からくとおれろあえ こほうく 大の一大ではないないという

2110

ゆうよろってもいしいといわるとうとう

〇神ふとる 隣女まる、枝野桃であるうつかってるでな れて神るるできますなくし、残ちからつなろれ きくさたのむ きゃきゃくんといかあるないい せりかろるるさ

龍膽

しているないはいるとないによる。統革

〇えやこま 和名動なもういて。たをえやるしいつい 雅を治をうかわるやあん

のたっれそくさ 延喜式典樂蜜のえん お作しとえで代刊るで、またまつ切るいろうい

ったる、苦膽さんうかっえこう道道後殿はよ ついなれのちいてくれてうなるためける、けんの人かくたん いとうまる。京平市の行うま と中光るで、又苦丹ともて、七舟のれとという 书 雅いきつやくとをることますのやしい年網买清歌 来なうというたらまわるようなよとあるを教も 思いるこうえをうむしむさしのいけっ

ごやまひこる 字鏡とえる

格梗 子れいらり 一つでるかってのそれもうというできるかかってうちゅうの あいなるとし

るいではのる一ちられことのなるところととはいるといろいろとはいるといろできます。 かいてるはいといるというとくないとうないとうないいろのなられるというというというといいとなるできます。 まましているのはいるのでは、いまなのまららばはまっているとくない、れるないないのまれてはないないとうない。 なっているとうない はられるのないないないないないとうないないないとうないないないというとうないないないというとうないないないというとうないないないというとうないないないというというにはいくしょういくはいいいろうない。

けると電信ではるいるであるようではるまるでは是きるころもできるのできばとぶらうきまするととなるととなるとでありて、まのはでいるとは、はるないろうは見ているがいるがいるがいるとはあるまれるいろ、いるがなまで、みまればなるないない。はなるまったなるのとなるでは、はらってはなるまったなる。

またがいいかはうちしるしていいいないころのではころなっちろうとってっているとうなるでうららのではころのではころなっていまるないとうなっていまるないまった。

まるないこと

こかねくさ際同意でしているとれいわらうなかくの名似な対象を発しる かなりろけっとればらとかんかくのなめによるとう でとうかしると、ばらいしくもさといかるとりをなからし よるとううからなう。はるでいいるめられてあるとつでか けるをうてするというしといいろう、すいんはいつおつい もしょきさといるとうしつうというってから 下向してはあるうちゃうける うらしけーキャンシス らるされかろうううりがはいるはきっかってしる

こからまっきとは、他のねよってー

役し、あを私きくとうむときなるなり、埃囊抄云聖 はるいてこく おうなくさ、私ろきをたいちってもなりるいるる はさくけん はもまるあさちしゃしるまちてれ からよもい 字鏡よ前をなとろう まきーよースてうきい古文前集る临海明が旅 すくからのろうとでならくのできちされるろうが 菊東維下悠然見南山というきゃくあをいとし、猪 を植とせーは真のほなくし、後まおうちらに愛し ガキニウエテノントくト南ノ山ヲ見ルトよ 一國師重陽ノ佛事ノ時アキ草ノ花ラ、北ノマ

秋はれる 産性学うるきるみとかうとちされると をとめる いれる ちかん いなてる「も内のからさくとうるるできいきょう 万代をそんと、八八年八日十十年八分八月 まなれきくのたもほうて、秋くとのたん

つるみあるり 協ら後でているっかちろうみあいいよ そのか えびかといってぎろくなんなかられて変ゆるで とぞ、ままないるとまれれのからとなりぬるというく らしるみんむつらてまめありしんり このことのころう

か前

下門門的好了不管以上好了一人在門是福養

まとうえろうとおのいろうろやもえるようい めことろ 我多多 花如四一元七分できるけらりるれるま あえる 美的な同しいうろしたのもろのまると 和える 美地があるるしてきれるうをようよしも えているというちもなきってるとううとい かってきると物のあるか 花りるめをでもますねて う、成い寒できょういきとしいううを初こそいまさられ ねるまたなるかられてきんれることかくまたし さんからずいないから かっのかなか

あえる 美信かはー しきょうているかとのまれる むるあまうてるではせる

砂えいの小のそれ名 かいかまるしてはなってはるとうしかるまはろ みようと なるのかなをりてきてはくかいのにようして

いまる ちをまわるみないれなくてあり、はまのぬる つを係の見るとついもうじってん をいこれている時のあつめるねまうし ととうるいでは、は骨人ととう、契冲はそれる的な水台一 物とそうれるるはる文選と海谷之気とわったの 名河谷被奈をかうとうこれ名がるとほと小芸と別

みするまってやの他の名は風のゆるまれはったとい 教はる 海ちる回一個同我多名了了吸出的 よからいなるるめ、 おなる 四一からそういわといからかまるうな ようするとうしていったるたったりかあっ きはるかうそめかってんゆるりる のとというできり うろきしるものか

影

いろれなるるるられるろ

ときれる 奏はあるしてるますれんなるとさる

そうなからさもなし

は一般であるかられていまってうとしからしている人 こるとういくてるましゃけったる さいきまに自身よう説ははのはねてくあきは まるこくと 松花物回してあるといのかえてくられ きれなるによっ人のおもいろしかできないから ううきこうとうなはのかいせのはくかとては後になる のあるあし、契件はる。後れい後ませてる教をつかると そ何おふるからろくらん丹はのりてみばりもたるなと

からるをななないとかりて好かとかり大 いとうとしてあるのかからいろ

さけりくらいないとうしころのめかろるはさてうも ではそれがもままるうとけってのおおれたされる かんうからくてい かつち 根なりきときれるかりるやさかるまやうは個よそ

姬式云便華律之蘆龍送三冬而香三月之順和 き、ころくなせんのでするかり 〇このさな 頭なる教治我るこのととい大松のたし、孫 名は蓋腹大根

たらる れからしはらしてあるとろうろとか るかってものうもろのかろうえ

い前ま ローラマまいうなはれるないるするうない えらるとろう

トなるたらむる内を 散くほう 回してれなっているちんさらるるの

愈〇うつ日本 出去場の中生なるれん孩人及るなな 松をますしは同一見えるとればまれるまれ 色のたとせい内でというかというなるると ころできたのとうつとうればきっきでもっていてはあいくちんく

そ、西我は除日よるをお多るというなでんとのまれ 不べ、はかろし とれてうまでうなるはをあってるとろうととうます

· をごま 我公属地四一次内的爱やなくをき 美竹 るなられるからのとそしいのうる 阿ふるこれ致しをひと

鼠尾草 とうるの いのる事かなよううるそうけいたるから いらける。我を回していてきてるやれんろした さるをうのろうろういろのやるのでうめり、えいかろる 水かるるのをはけるし

难

草みたけてるいううておおしていれるうっておき そしるのあい首は言のほうればしたるるとい意 おきる「秋えきてたけれるまからるろうという の活気 うとうしているあん なと、けるうるの苦のちょうくいろはいろはかしているし

日陰草

のか、みる わまとをはらをまといこかをして 乃れなうがけるとととることかろとうといううるし 為弘德像四十一中間記盡心以

〇二なるなる 回書とこまるなもういろうところう

者今虎杖花也之 子時多逢於落有于井中周為太子名也多逢花,为四及正犯者光是有年日,瑞井则汲云洗太

茶のをとこうまってとをこれのたとろなるまるようう。そ るったのらなり人なるあしにあますいれるとはは同 とっけいるありかはとらのい落とえけ、件のるをとうよう 都知苦菜可食之、落族你穿鏡 て、係的とうはし、者的心を記とさい、和名動云茶和 承も殺さがほとちい男郎をとえるめらいるいからな

つかいち 神代紀赤酸醬此云門笛々我知之

事 意ででる いろてタまらからからし、中院内府 ははる、七月七日年日は、芋のなるるでももなるとうて ではかしまるであるいる小をすり辛のならるかと できるけいものちみしもろうあったとうう つくなるとうときまるままりかつてまむこと

うたかしる順和名コキラのうっことうならくさ いこくこを作るる。格とつはあるてをけてると を書る書しるかでの後したの下でもんとし 同しち、方面をとる変あられるいから

をけらるないうけらとよう

十美帝独物はようにいくるともとうなってめよむらしてい 多ねされ 薩婚島位事也なれる。明を養婦者本美 そろ、大きはるよとしょうしくし、契神はる方多小子いと 我なり、夢ょうたろいやもくきまくるでとれていう。 唐禄花とあうくるる波谷受とはるるようれる黒 そらしくるとむめかろうると はときしいなりのれは都督いてころうなるはとい うけけるとしてあいけるねるちとおいろうしたく 蓉然でねるでいる院、祖林梅季小られり、方なるで ぬきるみらたろいやらしょうかうとるちゃてる

黄連

のかくもままあるえていう。和名シスは「うかりけ 延喜式やいくこととろ はそされなるのかろしまましたしろいかとれる

こでなるろうは探索」ときてはるれるとう それるかられのむんそかとからうろう 別科をこれではせずれる。題

わされる 漢語抄る和名和頂礼久佐多である 及を多わるくとうめつ

〇うれつわらる、る 萬名死管草一名志慶店五 補助をまるかくとさせんてなるころとむうしろう

きているとういうとうなり

ゆき、さいないるとうであるからぬそくもとの かなとろれとなゆきしさかと

船といろさいあるよういかるけい回り他のきろうる れるもうまさそろう なるころでいてんらし みるるいかられてはなるとうとなったかりるは るかられ

かまつうみを松るらるかまつうみそろらうなやかり からつうれれるよう、方向民小切る他的多了了人意 名うってけなる「のまるでくるなるいちできま

射干

からそあふさ古語拾遺云以天神草押之以鳥 一学りていることわれる他のあるかっちぬの 島陽鳥なくいている島高とかっているのままま 扇扇シューを含いあでさといるわなるーはを金 なときろうん

王孫

する。事者なくろかたうのでとうかいはきるかとう のかたらこれれ 万をまナカーものりぬめい十分いもらうらと ッチハリ、えるスハリクサ 稿さとうえるくかこるとといいいて王孫和名 とす将の記受多くまできぬあり、年年の王孫釋名早 冲立くかとことでよるのにるなけれのからて、大サラ みい井のきろとてるといるとうといきなると、契

旋潭花

こかまにはろご 延喜式并康頼本草類編之。旋復 でもそうはまそれかんとあるかられる 花のからいするかからつほくとしらのそうつける

こもまひくさ 家鏡

數相子一十八八人五人八八人 やまきげ万十一受りのとうからをけれていまてきと 一かまくろうちろうそんで源順云、変門冬本須介

胸のきとくさ 仙気がなきりまといるの民刺とつちまさ つめたちるるちくまる「我色をものいっしている」いのい 着みしるなうう、契中のる二きのうことをは きちてなのそろとからし、よってないからそこの时利 く」みからそこいしてるないともからしい そう一家我おうえる。お投いれるううけるうたされ

水葵 るけもうろさの人もならりぬかるとれをひ

〇なぎ 万なるかとこのおうものようるときさかとくをう。 芝解草和名奈支似,军鴻花青白云, 整章類編

大場でなさらるこうをままなるといるまくう

〇て、ろかと 和名鈔云、本朝式」、段海漂は留意波俗 ときつかっつとはようぬるろうちゃくろん る市上きる 強人おうなよんちまっかなっちょうるを

0とかもて ありるの

水

のおこはよけいるこのしなりりを漢語かる 0うかまつ ほんそのうしかるのではそとなかさ やるこったてからいちゃんというわっていいはある海

なるとうといるおるははなるしけをするあるたる

とうしまなりし

いなることのかんとなるとなったとなって

タをする一日一月ようなとるおれれてきいうとこ 海気なってん

ひる ないたちゃんしきてるまのはしょうかう うかってのるえのえるかっきるるるいみへという

というう。今好美名でかり、花季ようではかみか 〇十天 晋の王子献かを枝属的之何可以母與此君 うては気とあるけいるしるのくれか いけるようてという事あり、好る数な「万代もろいる

〇君友 向果天的意品的を持くなとをでいて、车相

文粹第十一云唐太子賓客自樂天爱為吾友之 よっているかる、残るってん る我なよる後まて、我友ときっているころうかいるい

いなさー 賞なるがらうるねらしもむとち ふくそれの国生教をけずらうる。いまれたのはよって 中的岂有朝子孝子祈天得省多

胡かそいうと そいうと おろうれい くきみろちらみ ノー・コールーにはなるがあるなが、大きのできないとうないと

見布しいろう

えいますったから

されることの本でである

一名なりののかららら降天成了

ま するがるこう

おろかはまっちゃなと記る

京村でなるでくけている人できなからからのからのでは、あるの間のは、日本のでは、日

なつのかとき、中大つれるという

5年

南京 地黄 黄精

厳語 さかいろくさ後・すられくさず あまるまいかは忘と一るやよちとは なびいからいきろいきな手

すくないてはくその連般の一ちいちぐそでは あるる後 いろぐみーえいはてける 何民造書的表力

龍村 たつめいらき同 おさかほ字をうざいた同

をとく ナリト云り名

いとくさ、康幸 一名かみのやうら後天底す

たつみちくさぎ

きがてきさけてかんるをおといなる。次本部 做之言がてきるからしまいるとうるとういろとの、俗呼の私名をきるとはまたのというなったとうであったとうではまたのえようなとうできるというなったとうであったとうでは、とうないとうないとうであったとうであったが、えよる格稱の私名を注を、ときのできるというない。

倭とあるた傷名類歌なる。唐本とる八丹は唐積本草打締名をさられていまずと附るとのい新撰字鏡けるが、近喜ないた書はれんのうるのとかるとりはいまするいで喜ないたままかんのうろのないのとうとのというないとうではます

獨活 らますかる 一元はかるうない かまかっるうろかできるる やすいいらきゃっとったん やびなすびおうのきることのよう はよびきる。まろひき原季 よてくさーえまがくさら かずねくさい。れくさ春年 たちたらに のたらす みられぬくさーえいきはいたひくさい のせりつるあまあるかの体

田とゴー

夏鴻鴻 雲清清潭 黄光 簡新 天名精さまたある一云はまふくらる やませりつるかはせりみるう万岁りる ちさきとける くろくさってありくされ。ないからこ やさらくさは。よいくさき はまあらいざってあらなくさる はみーされるみやうらい S S C K & FOUND & Land of the Manual Comments ねあざみーえよいすくさん うるきゅ そいきしるふかいてろきね かってくるちゃ

催る果大子かはずべくるけらしるのこするうめて

新リヤス 白頭サ おきなくさーえなっくさる かきなーるあきる同 つかりくさーるはうてくさん ーとさ

けんてはなくなのなやとうし、孟子尽一心章、西次考ない うつねくさいるにいるい。かつそくさえ

旋れれ 三白草 為社会 牛石連 具允安市 ちめくさ和物産家ニラッナシナラトラの然に日本のとうなるまで、やひとくされ大戦同訓・澤禄同訓 うまくさい。たちまちくさいよいやるになる たちずちくさ和牛福泰光・相似 いるはらもつるいはぐるる。くかけらまってき はできりまっかいなうりできるときといい 其乱節也というとなり一名はるこ かたきろくさる。かためくさ。うつたる いきちろさーるいたちでせる。あいくさき

台並

らさもちーえよろいくさい

敗酱

台等 いつさらさい。文教の一部の湯春味 ふたまがムーをつふねくされ うまくさーるあまくさい

海洋電うむきなーえやすどりくさ みえまらたけ とくされ。くりな字 そうにするいろをみかしてるまかりしょうだられる やあみるろうるなれきまるれちろうううち そるたでくく一名くろくとみるあまなに・ 生ニをあるいろろいてあるにのうてりますかりことかると 目山草自一微生一年月川谷三、愛なくしせるれいう にいすてもいなりますったよるうけりうちはは本草紙

るいで

莨着するはみるくきゃいれるひろくき原本・れる ことくさが旧ちずるるまるからるよう他のるるとろうか あやめたむっええいずねる。そいくろうち ちりかるろされ

さきぐさる からってのけてくるるかりくろう

同うとのありとさして、おかしたいっくははやさからえ

鱧陽草うまさた 半夏 わい、び和 はろぐえに かはきる ・うたぼそば 日訓我馬令来教

秦、美沙虎,甘花 お はまかれ るいそーえふいろは 19 そり

くさ原奉 やまうはら 一方きいおろびのきる。 かもと

和

意,大文及系赭 译》载"己文魁 學是養養 こやすくさか いつかし

そやひとろさ 10 ねびす スラはらろさま つきぬぐさか えなたらか一名あきるつるみるそれせでは みと、ぎ 19 されらいられる

白色光泽高至養 つきだまで いをすざね ・たまつます古語拾進去意子

石が龍湖 はうだーるつくみめいひねね 动 うきないたいか。たつないドラ 3, はざきる うづみ 和

・はろきろさす

玄語 おもくさい からちらでは 押之でくちーまみとあるまち ・うちらナギ 去语拾遺以天神智

漢本 苦參 さいちろらせつつるそらかっ くら、一ちまいとくされ

徐長卿 だまます かたがみあまるまかってきおそいるかいろかからまと いかったのまるけきうかとっているとう

白数 台前 中去了小公司神代紀八百萬度为丹言 めかがえる

苗族語 いきょもぎょ

王不留行かさらさるしんのかればはない

白萬

きろらもれっるうはららもぞる

教美がいきらさるさ けるととっるかはらばらったとうちもし。の そらぎくるさるうれるうくいるとなって式

第耳なもみれるこれなるとうでいい。稀後をやちゃとでも 三稜草、みくといも投いれてはようなころうないうと はくちけいくろうさるしょうり

積雪草つはくさい めちりがさまるいちかりは万を変え 七一あからいいないってくうというう

ちってきてきせところがなかったとそうきるはま そうけっかくられて とつるはいときちかとつも、万多ろうちなきち

くれおかもはまちまめる影子のかもうりからるで きずる今後はそされまを用すれきまろし

それやまるものなるあいのこといろうり

白慈草。またぶりろうの こまたるぎつ前義馬食食不去るまとうなると おはるかくけるかんさされられんやいとうめてし

勒 かるわらびる

大年 下上の一十年日

红李 ろくとくは つちひとかた立 ぬくであままかとうれまってるやまない切とてはた

かろうかないいろうないのは、からは、まできるとう すきり似手蹄味酸故名之 かきたなない由政いな国民の没会とアラーと次一次派し るからはくいくもかった

沙童くが和力量をからなけるようのくつもちむほう 蛇子といるかきろれるとうなるのと でうきとよるくべついけまうて編してるおおことされて えなくれたらの清節をいうつられるは上 さるはらうそくしくつというりいいまちょううかに るをツラでいるでいている教あつるうとうとうと

草炭 羌 冲的首英心事得かると改革英子ととなり れるる。前後は海をころるるでからるとはあるか かちらうちゅうけいる英はないちょうとてきでき さるちする るまろうちおはい一ちわてる 天武紀完子がでといき

馬鞭草くまたづらる野機にはしまるうあよきはそのよ おもううづらる ろうかつころくしむかられいまりなから

或べているうしているうできることである さねらづらい方は十二真王着してう、礼我そん

然為 えびあづらは蒲菊えいろつらおとは上 あきうづらっちましおきつとととなるものそれ

すいうつられる吸香而甘故名之敬 まなけづらず・こうかき原本

大震響、あよづらい甘島とからのであると

百部はからいっちいっちかれり見る氏は、洗しれてとろう

細子草 そうううちゅうというっまけってちゃ くろうづらる万十ちてもなるといかはとれると

あけびらづられ・れをうたらす家社をうでは こませりず らってうきるようないとうってくるかれた。うてきくるけま 題によるなるのう後とうそろういけんなってという

野頭 みつそ、だ旧 野頭 みつそ、だ旧

ヤいろろる うつおめくさい

灌蛇产附,熟 めど和

あれなるとはあるは美

かからかっているというとう あっていていかないかられるいというない

ろされあうるられいくさけらうるけるういうまける 为ぬくづちる。か好いい字 きていいなさるかきかってい

のいえ あらうなののよる山松さしとよめ、国家よれる いるなし、人のるをいるとうでとり またふで和名鈔权極端、好氏は舟のようあり やよちものできるはねかるなえる でぬからいあるできろうろうさんようともうかん ほつきはるおしあいるとうのあるかますようちないき あり要中西るけらん布をよいサーノスアノととしている えてうろうしらのそろはまるまみなゆくろうでと 得しかれぞう最末枝ときてホツエとよめりそのでし うようとうれたろてつめきるうちないかとい

梅養放及者を見る一一ちるの称語ななるからこく うると多数もうれている

まるへる「そうよいかるようし被ははいうとを からてのったそうはなるとうなるとうのとれ 智多 いろう まつるまるそうちもしいいというでしている

持つされ 和名等 薩佐四一一一一大人了事了的名字是を中 かってやなるとうとかがはないとう 以のそは衛本を連行後ゆくとうなる

櫻 ちかる 夏でるがをかるしようきかまてたとうやそろると 化るにるころうそれ多面のられるのこまるなかりの 等にき えか回しするひりょうのとのいろい 行のえではあめてしめてはなかりとう 他名るは一一あったるいうから人のうるおきてか あらそときるのののまと ころいうさせるちゃとれるとかったろうとんって あるかろん きてきたろうないしけまうえけられ えらううなからまってる かるしる

四月里

明年 ちゅる うりのもつけるのれお もよいるようとうろいるといるかろろく のるようからうるかって とする「風るやそいけるものろうちしてわる さありぬ情なかりはまってる

乃なうけると

川きる一個のではいくのいるるありやあろ 村子公子里一下了人名 一种一种 内多三年「ますのこまいれその日をういくするない とうれるるところうかっている

るる あならゆきまけれるなろうけでものいちな ひにうない でんきさんなのでとうであるとうしのりか 書る ふるのものようしょうとうとうしれのなとうか 中間さま をショーのむくやよけをとれてしてきると かなっとうといろうちゃいのあくうかんようといかうせて ひろんろうまうべんかのちょう

みちとせらさ ふくうそくかさけるれかられることと こまける 「くっとうほうかってろむ人やきちょうる らるいあってや まとえのろうてろう ろえているうん

桃

いるさらちはんなはなくないからるったっているとう 一はあのこころれてるとうれもでくれを

るやってる

やしてるころになるれれてかるようるころるかなの るではいくている

火たきる「あらけいそのつーろしょうはくけいろ とうとやいろは、そいも投与他のまといまをうくってし を生かさまといった。ろうろんの

当学いくこと なけらかったけれるれるからいったとうないとうな つよっしてあらきちょうな田はのなるのとろうかっしめ

ふはそんけむさろうたきとうご本まってつしい いていたとうるととなるとなるというよう

〇よう、しらは息所多会数みつしけどうちょう よっくついきのそれ人をつきわいあまっとうかとし

むめつさをれているときのけできるときれらぬり ちらくことろれもさかりころの 松花 大人名 如人人

もえる たるとてるかやろうちをなるめいきょう まつえらさいちらるまやとはうめずにからとんるのか らみてしたちろう

をできる。

种内当

道をにたる

るちるか

つわたまのた けきる一まるとして およるかではれ てんというさけんからない きるんるのしろさくれてるからくきるるるるっていって は決るかおろいなあたまううとしてるちょうちなま うさてまいかの方なるともらうるうとかるいかろ

とろうてるれぬる

〇香果 垂仁紀之九十年春二月天皇命田道間守ちます 八人をくて高いあるり苦るまをかつして他れる たさるようきなきしているみをあるようとんのようなとを るととうかくのうけらなったしろうっていっていけるとうい

きえる「秋もてやらくていけるとなちしょうとして 錦る「そうといれるとてなるがるようとくまいろ あるるのかろうしさくてういいなはあるとうのろも のからなった。いきながるないないのなるとはない むらせてかく ろらろ

30 PT =

られている

いはましてなるとのでいるなるできている

なる国家 一多了多 梧桐一葉落而天下 知秋了多了多 このろうへしているとうていいのははあるですのとうと る「大きである」

椿のあをさるつないをはあるるあそさなつるという。長 安のをおがならるよからく 数いる場所はよう

なるようこんいる万代なされてかれるもよのなり るときというはなくてうれまるでかろるしまるのもっているか

近本ま をかるしてる日ぞれもけのはかなさるまで きゅうつい

るようもうちゃんく 近是るうろうあっているべきるとでくえるかろうかな うるといえとも

事をるようなる一つらそっていちちあれるとろる

初見る「としていくうけるしてうころうけりぬきて 出もるなささはましてある

やるける 私到回一神中等極了时を言よる る代える れらのふるによっちちるななをできて えるいそう 内であなれ

5 5 5

久しさえのなるなるつ

るる をきるからもあせらさてのましきるまかりそめから 起いころうとうとうとうるとおってわるから めるなせるますうかんはおきをははたのはないとま れとうできあり、彼れいいあってるとけて何ろうち る人をおうれているときなっているようにあるとう 私いさろぬ ころをとうてきをきてる。被るるるなないな ぬらてのもしょ みもうるやきつうそれるうるけるところかくう 一多はいあーふく ロー「佐ちやなみみみろみるなったったしてえ

むるないなんとうというてらいくんむさしの あるるな技多 らんでいかけるままする

アスマウ とのるよういまのふうされてめるをまたでくちてく おの事とうと、多はある。るるるなのならしいるるの するてより計好なぬん。我多の役いさしは多く すのわりみるあるれやさるうしなおからといる。旧 おとてるは、あるまる、はちょあいれや枝りんとなせ いるとうまるははなるからるのるらるいく しやうなるるであるのかあやまうるとうや。不多一 の発気が上する

五日の地村は

でてむとすらるというやあんべれのとうくとうい 心見が回れなるかってあまかちを称してるると いさかりだとうるのなりというでき英母あるによ

水

きしならう されると「はるいむしちょうされるけるつてよいと るべる 大内やるときこのるいまってくしくようれ くちっちぬあかれところですのるたろうるろう いういはある。女意名をだけれるとうとてある るなけるうせり、老佐馬坐るのましれるようといめま

のいろ、他一要冲法がある的な原間第のるというし する るるであると成えるあるるとなるとうでする に国るローははをであるいはもをようなろと 高子 幸るでもうるいるつうとみるとりでき るいろきついてもおれるようてたといくんといめかられ を同るとそのおそーは同一大りやるでいって 好之和名物了以第日本纪私社会。福学、草枝了相 るからしているううとうしまれることで うつてくておけるうとるかあってえして 値等~相當也とありぞりを幸草とてちとつうれ。 つきとうであるとかううっちく多いとさらさい格と

THE THE

いそす「カサリンよけんろうとかうおけるととのそ でいたかりていましていることとは きっつい捨み事とあるの後いつかはなるれ

松のかろのまるなとうるのとはるとそろうときます やむらて神聖まいかくなるとうでとう しないつきてんくくうめり、実神をそこのあさという PORTO MINICO SES HOUSE CONTRACTOR

なつかできたがですー」の「一人は中でよりなり」を いうとういうとはいればようではそうとんとというなと

〇あでのと なしともをきてありのとというであり そとうしていていた様をまるからとうしきはい

いきかりうきでき代ありなっと人いつで かくしのて そしはまるながえる様を事るとと ちわらるるっまる、香久山りて称を至るとうで 声のあきいかくしというててもきなっての称を かくしといてんるいのとういれたこれにやるく 一時気がそうかさしけかけるるをそろでのき

在谷樹 とさていらもころうるとで方の格をあられる ときわらありをよるとはいらもよ文武紀云大寶二 年三月两子造當職献一杯谷樹長八專俗曰此之之 るを和名妙本類黃芩和名此人良木と我ら色

D. ALI

ていとようかしるいでううかっちゃってきれい いろしとておんといからをりつけるいままるまる出るる あてのまといいられとあるては称かり、他しもらむ 一八不多なり、黄芩八多し、辛草個目よ黄芩山草 我せてものかいれなっとともひいうあのるるいでい 部よ数を気はなっておるおよりであるまちと あるるといいまるというもまというからくい ちうをいる動あるというちあといれれかり、まま の利うてくせでと、ラクなし、夜と、ラクとうぞう

次る当年 をかけしくしてけれまするかできま

お柳草ととうなというから きでするとうるようではるお後のみをとう くるきていたですむ出るとしれるるとうであ

久奈無佐義者るようかうろうさくかんさりを のごくるむこ 和名鈔云、和名止比良乃木、俗云佐 かとくせるでえる えぞうしくなれるるいとくれむさしのるおゆう

のこむらみよ きるおうる山きはあれるてよる楠 てでからみまとなんかといいかれる。はるみちのは引 るはありなるとあくるといろうなくるといういろ

松のいさかさ うつは構めてみるるもはいのむさっと ふるうたる。数でなるようとそし きているるとれたるととうさうさをかりなるといけ

合數本 し、低神の吸んとはよりかきゃしゃきょう のをからりてき、契神はることうさい心神低

のかううみは ちはってるとうつるいめるからうのは

をからえんやりけるいっちょ のあちまさ和名鈔いもるゆう。天智紀挟井連

抵鄉的又古事記坐坐梅柳之長聽言之仁德帝

ゆ致なアチマサノシマモニュとしも、

胡頹子 なるはじかるっるふとはむらみ和名動

いまのまかり、後れなとうせんちょうな素の 茶の同さまさくさ 日事上人でろう、同なるしろから 下するとなるしるいうつかられておれましる

〇ほよ 万紫ナハカーりからのこめをははようてとよ

多了,契冲师方都名的寄生和名夜止里木一名 保夜をなうっとやる

松首

野土

〇村のた 冷泉中的多考者では、お発しあり こぬき カナ九長歌号川のらる本記しまされて とうさかてかままるるのとひともうとているできるいまなるというできるというできるというできるというできていまたいまたいまでいまでいまたいまたがあるというできていまたがあるというできていまたがあるという いしくるままとちずあらまているるをノウのる又 をいっという 切え、おけまときものがうろうといれ掛けをなる

茯苓 るをやなふくう ようふぐと大後五さは代大的でいれんろう まつほど、延喜式典楽養与之的、祖我村陰好 でくこのをくけてなりって大気は」、気にふゆう 日本紀山前法を隣と為そ

まつらさればるまるとうはるのなってはして あっているとのハミー

八分はう日本可為劣也で、位山砂機を劣了他や さされたまるわるいきはみのおくろう。蛇をささ とういけるのなけるからなるはという

いったなるなんなろう

めらづらる をうづらる

朱櫻はそう一さいとさくられ古事に上る。東天 香山之天,婆婆如而言 男同一先 公帖一知之七

ゆき、又るちはうね・ならみき字 るあそくやさからないないなったちるしとというです

据,特 たろうるううこからた人のなうせてこるある つきる甲型は国つこの市出いるしいまるなの名とや サーつをはなくも

ゆえらするとはは、一年の一日の日本の

いたちもはあみ一るほそうに皇極をかりませ さくていていれるくとうなあよろしてきけ 川スのあれまはそのようであるいろとってき

かちはごうみは

厚朴

まえず おはたらい は、か生え、万十九ませてのさけてるではほの

ひられるきおきに・まめふたみをむられた年 つさけきるまる「関をつうちょうちんにされるのつさ してあてのとうであるかろうかってい せめるこれきれること

罗五十

もける

羊頭躅いそういだいのはとあるるうちろしあれたけ あいついざる いそうよういるはしれなりるですんとやろし

あつるずる 今後アンジュしる

ぬでは今後間ヌルデ、極川るであるてきちろね

あてきる古事記阿彼岐原之後去によるお好病や きにかっろけつめてすしてみるろは、そう

あるうけっなまつはとうとあるではん

うはみきるに使死大房所なるみろうなまるような ころからるないる中ではもれることである まけったうさろうされるであるとうはてれる

是而不

線跃木

そいなめをいうことがある 種当、スかつみまとる一方十であーかりなりをかちる 古語於送る。天下為神津院見神殺人 我めつりまするあるかっかりとてもくちゃらめれ けらめかつみまろとくそろうなることかぞ格し はやかっているのめるない中で うしり そろけれめきてからそはなるとんつきころれ

燕海社 表示种 くそまゆを一るかとくまついらり

ひきけろらる

そわりこめきは数まるかりてお下といるのろう やはれば今傍こしとのえり

できてなべるこうとであ

すの教は入るい まかやさつるのせられる俗のうぜつううとう またゆをりとていれりやのとき

よろうちゃくとかとえばついらの

賣子木かさらさけきいいなさける原本一力なるよい かうやまちきんとうちの

雞、冠木

高日黄寝蝦を、四十からもち山からからてひれる

つきてとよれるないなけれるはいるなれるか

から、といろうとうというでようくれるからくなかい

接骨木 みやからよいというなかとうとうですることではい

馬草樹 金漆樹できあからみきり

おる小島草樹でる下生立かり、山中はえ、サ佐斯夫能紀斯賀城多佐依斐陀豆流等厚顏さまふのきる。古事也記磐之媛皇后歌奏

もおおおとえどやきる何く安けたるはまでもし

れ当人でも対象地

好がたうけきみるいめつむきは佐川をはるででか せきみる・もはこま たのちょういおしているとうしてはてつついるとう

もくらるね・くろもむち原本 いいらきれ・きはのき字

立く五十三

段棒しろぬぎの舉物同川日本紀"歴木同訓 万四方の 制草品 水天葵られたいびはとゆるまとび 中まうつき よるうろいちおいいかに 康物学 ねすみもちみよっ 花をうしまられるべ なまえみれる ちまはいわ マコうらはやくくすしはりましていくれている かいくろうできてもあるとるかいろうろう おものちのそうちょうていうとうにってきのあるる こういといっとうというであるましてり

さくらみるきたまうままますうちいろうん やまあらいさつるころもはぎのみる。いき うさううはるろうなるとけるとなるというるいかか 川おきしめられるとうちゅうれらかろう

いるできているとおろうからうけんかんとう

南畝芳言二冊 千紅萬紫 東都書林 聖言以道さまとうの 山書八蜀山先生粉年の胸をけずりおよう 蜀山先生将文ははならくろうちのむ 初篇二篇 芝神明前 岡田屋嘉七样 後篇 近則 出来

- Low or when your or sold -

大大方一名52里江

くるとなっているのではないと

TON STATE



